

2002年度

講義計画

桃山学院大学

一

二

三

四

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語Ⅱ a		通期	2単位	徳 成 外志子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>朝鮮語初級修了者を対象に、テキストに沿って、より上の段階の文法、文型の学習を系統的に進めつつ、実用会話や旅行会話を中心に修得する。</p> <p>本年度のこの授業は、特に、会話能力を高めることに重点を置きたい。ビデオやテープを使って聞き取り能力を養い、授業はできるだけ朝鮮語で対話を行いながら進め、簡単な日常会話ができるようにもしたい。テキスト本文は、短い実用会話で毎課完結しているので、最終的にはテキスト本文を暗唱する。</p> <p>余裕があれば、併せて、簡単な朝鮮語の読み物、民話、童話から、韓国の歌、新聞雑誌などまで多様な文章を副教材として取り上げ、読書能力も高めると同時に、韓国の生活や風俗、文化の一端が理解できるようにしたい。また、朝鮮語で自己紹介をしたり簡単な日記や手紙を書いたりして、学んだ語彙や文法の範囲で自由な作文を行い、朝鮮語で考え、朝鮮語で自己の意思を表現する基礎的練習を行う。</p> <p>授業は基本的に韓国で使われている言葉を中心に学び、朝鮮民主主義人民共和国で韓国と異なって使われている部分は、適宜補注していきたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期：1. テキストの1課本文から、初級の発音、文法の復習をかねて行い、15課あたりまで進む。 3. 簡単な副教材プリントや歌、ビデオなど。 4. 初歩的な作文と会話。</p> <p>後期：1. テキスト16課から32課まで。 2. やや高度な内容の副教材プリントや歌、ビデオなど。 3. 作文や実用会話。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎課行う小テストと学年末に行うテストの比重が最も高い(60%)が、それに出席(30%)や普段の課題への取り組み(10%)を総合的に評価する。語学は特に、出席と普段の授業の予習・復習が大切である。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>辞書等は授業で説明する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>李昌圭『CDぶっく はじめての韓国語』ナツメ社、2000</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
朝鮮語Ⅱ b		通 期	2単位	青 野 正 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「朝鮮語Ⅰb」で学んだ基礎力をもとに、文法をしっかり学びながら、徐々に難しい文章の会話・読解ができるように進めていく。</p> <p>この時期は、日本語の文法と似ていることがわかっているため、高度な文法の理解も容易であろう。</p> <p>1年間を終えた段階では、簡単な会話ができ、また辞書を引きながら新聞記事や簡単な論説文も読むことができるだろう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期：第11～18課 後期：第19～25課</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、受講態度、期末試験を総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>金東漢・張銀英『韓国語レッスン 初級Ⅱ』スリーエーネットワーク、2001年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語Ⅱ a		通 期	2 単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>大学に入って1年以上経ち、留学生として日本語の実力不足を自分たち自身がいちばん痛感しているのではないだろうか。</p> <p>日本語の能力が不十分なまま大学に入り、その後、日本語の能力は伸びず、むしろ専門の科目の勉強などに忙しく、日本語そのものの勉強まで手が回らなくなっているのが現状ではないかと思う。さらに、テキストなどに出てくる日本語と、実際回りで見聞きする日本語の差に驚いているのではないだろうか。実際、日本人はあのような日本語の語彙や表現を、日本語学校の先生たちのような発音で口にするのではないのである。</p> <p>この授業では、『インタビューで学ぶ日本語』（凡人社）を使用して、普通の日本人の日本語を聞き取る練習をする。これは、他の聞き取り用のようにわざわざ録音されたものではなく、ネイティブの日本人にインタビューしたそのままの録音教材である。</p>	<p><聴解練習></p> <p>(1)インタビューのテープを聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会話の大意をつかむ ・シートの問いに従い、聞き直す ・設問に答える 答える ・ストラテジーなどについて考える ・スクリプトを見ながら再度聞く <p>(2)会話の内容について話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タスクシートの設問を利用する 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>出席を重視し(年授業回数の3分の2以上が必要)、評価は進度に応じて年に数回の平常試験(4回程度)で行う。</p> <p>詳しくは、授業初回到説明する。</p>	<p>堀歌子・三井豊子・森松映子(共著)『インタビューで学ぶ日本語』(凡人社)</p>			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語Ⅱ b		通 期	2 単位	吉 岡 美 穂
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>このクラスでは、読解を中心に行い、内容を文章で要約する練習を行う。自分の意見を発表したり、ディスカッションをおこなう。</p>	<p>異文化理解の文献を中心に読解し、それに関する質問に答え、クラスで発表する。小さいグループに分けて意見交換する。</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>出席・テスト・提出物・授業への参加度、態度。</p>				
[教科書]				
<p>資料は教員が準備する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育学概論 (旧教育原理Ⅰ)	01 02	秋 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	竹 中 暉 雄
<p>[講義概要・学習目標] 「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史および思想を内容とする。 これまで学校教育だけで12年間以上も教育を受けてきたが、いざ「教育とは何か」と改めて問われると極めて答えにくいものである。教育について考えるためには、人間について考えることから始めなくてはならない。なぜ人間だけが長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのだろうか。このような疑問に答えるためには、いま急速な発展を遂げつつある脳科学の助けが不可欠となる。 その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、そのさいにおいても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。 教育学の学習において留意しておいてほしいことは、いわゆる決まりきった「正解」というものは存在しないということである。神秘性に満ちた人間についての学問なので、仕方のないことである。講義内容および各自が独自に仕入れた知識を比較検討して、自分自身の教育論を持つようにしてほしい。質問・意見は質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp) で受けつけます。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>教育の本質</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 教育の一般的定義とその問題点 2 人間の教育必要性 3 人間の脳と教育 その1 4 人間の脳と教育 その2 5 人間の脳と教育 その3 6 教育上の人間関係 <p>教育理念の思想史</p> <ol style="list-style-type: none"> 7 近代教育の原理「合自然」 8 ルソーによる「子どもの発見」 9 「合自然」の流れと反「合自然」 10 児童中心主義とデューイ教育学 11 連続の教育と非連続の教育 <p>12 試験</p>			
<p>[成績評価の方法] 論述試験による。コメントカードは参考として使用。</p>	<p>[参考文献] 配布プリントに掲載する。</p>			
<p>[教科書] 使用しない。毎回、プリントを講義開始前に配布する（遅刻者には終了後）。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教職概論 (旧教育原理Ⅱ)	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	林 陸 雄
<p>[講義概要・学習目標] 1997年の教育職員養成審議会答申を受けて教育職員免許法が改訂された。その改訂ポイントは、教科に関する科目を半減させ、それに替えて教職に関する科目の重視、とくに生徒指導力の向上と教職の使命感の高揚に力点が置かれたことだ。 それを受けて、この科目も必修科目として新設されたのである。求められていることは、教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化である。昨今の青少年が示す様々な教育問題の背景に、教員の在り方が種々取りざたされている。さらにこの困難な状況を克服するためにも、教員の在り方に対する厳しい目が注がれている。 子どもの成長を援助し、子どもの成長をもって自己の喜びとする仕事は教職である。そのための基本的な思想・感性・知識・技能を修得していくためのガイドラインとして、この科目が位置づけられている。履修する以上、教職に就くという強い目的意識をもって受講してほしい。 可能な限り、視聴覚教材を使用し、参加型・体験型の授業形態をとる予定である。主体的な受講を期待している。各種の学校を訪問し、参観、補助活動も課外に課す予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業びらき 2. 教職の意義 3. 今日の教育問題 4. 教員の種類と職階 5. 教科指導 6. 教科外指導 7. 進路指導 8. 教育相談 9. 学級経営と校務分掌 10. 研修 11. 服務規程 12. 学習指導要領 13. 学校種と教員の在り方 14. 教職課程 			
<p>[成績評価の方法] 毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。 ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>	<p>[参考文献] 授業中に、適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書] 宮崎 和夫 編著 『教職論』 ミネルヴァ書房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育心理学	01 02	春 学 期 春 学 期	2 単 位 2 単 位	冷 水 啓 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年、学校では、不登校やいじめに加え、授業中私語に興じて教師の話を聞かない、無断で立ち歩いたりふざけ合ったりして授業に集中できない、我慢ができず些細なことですぐに切れる、といった児童・生徒の行動傾向が問題視されている。では、このように日常的に起こりうる困難な事態に対し、教師はどのように対処すればよいであろうか。適切に対応するためには、子どもの発達の様相や一般的な教授・学習方法を熟知しているうえに、さまざまな発達障害や問題行動への臨床援助に関する基礎的知識・理解やセンスをも併せもつ必要がある。すなわち、平常の授業を円滑に運営するだけでなく、問題の発生を未然に防いだり、起こった問題の原因を究明して解決へ導いたりするための知識・理解や技能、柔軟な判断能力や態度が必要とされるのである。</p> <p>そこで、この「教育心理学」では、生涯発達の観点から「幼児、児童・生徒の心身の発達および学習の過程」に関する基礎的理論と教育実践について学び、実践的指導力を身につけるための基礎作りを目指す。</p> <p>なお、本講は、教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして、本学教職課程での必修科目（随意科目）に位置づけられているものである。授業に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 生涯発達と発達理論 3. 乳幼児期の発達 4. 発達障害とその臨床援助 5. 児童期・思春期の発達 6. 児童期・思春期の心理障害と臨床援助 7. 学校臨床 8. 青年期の発達 9. 青年期の心理障害と臨床援助 10. 成人期の発達 11. 老年期の発達と臨床援助 12. 全体のまとめ <p>[但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある]</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を重視する。学期末に試験を実施する。必要に応じてレポート提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>藤永保（著）『幼児教育を考える』（岩波新書） 井上健治（著）『子どもの発達と環境』（東京大学出版会） 三浦香苗 他（編）『教員養成のためのテキストシリーズ2 発達と学習の支援』（新曜社） 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会） 高橋恵子・波多野諠余夫（共著）『生涯発達の心理学』（岩波新書）</p> <p>他</p>			
<p>[教科書]</p> <p>下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学—』（東京大学出版会）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育方法学	01 02	秋 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	冷 水 啓 子
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>ある新しい概念や問題の解き方を覚える場合、なぜそうなのか、なぜそうするのかという意味を納得したうえで覚えるときと、ただその内容や手順だけを強制されるまま機械的に覚えるときとでは、その問題そのものに対する理解や関心の程度が異なってくる。子どもにとって、楽しくてわかりやすく、有意義な学習とは、前者の場合であろう。</p> <p>そこで、この「教育方法学」では、子どもが知的好奇心や探求心をかき立てられながら学ぶ楽しさ・充足感を味わうことのできる学習とは何かを考える。そして、そのような学習を実現する「教育の方法および技術」に関する基礎的理論と教育への応用について学び、実践的指導力を身につけるための基盤作りを目指す。具体的には、はじめに、教授・学習活動に関する基礎的理論を概観し、子どもの理解を促進させるための効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴と利用の仕方を学ぶ。つぎに、子どもの年齢や個性に即した学習過程を支援するためのコンピュータの実践的利用について、コンピュータ実習を通じて体験的に習得する。最後に、実習で取り上げたさまざまな電子メディアを活用してプリント教材を作成する。</p> <p>なお、本講は、教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして、本学教職課程での必修科目（随意科目）に位置づけられているものである。授業に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教授・学習活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習の原理 2) 科学的認識と社会的認識 3) 学習と認知 4) 学習への動機づけと学習意欲 2. 教授・学習過程 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個人差と学習指導法 2) 授業における教授・学習過程 3. 学習指導と学習評価 <ol style="list-style-type: none"> 1) 教授技術と学習指導過程 2) 教育測定と学習評価 4. コンピュータ教育利用；その理論と技法 <ol style="list-style-type: none"> 1) コンピュータ教育利用に関する諸問題 2) 電子メール、インターネットの利用 3) 文章作成ソフト、表計算ソフトの利用 4) プリント教材の作成 <p>[但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある]</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席および授業への参加を重視する。学期末に、作成したプリント教材およびレポートの提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>波多野諠余夫・稲垣佳世子（共著） 『人はいかに学ぶか——日常的認知の世界——』（中公新書） 情報教育学研究会 他（編）『インターネットの光と影』（北大路書房） 三浦香苗 他（編）『教員養成のためのテキストシリーズ2 発達と学習の支援』（新曜社） 水越敏行・佐伯胖（編）『変わるメディアと教育のありかた』（ミネルヴァ書房） 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学—』（東京大学出版会） 高島秀之（編）『教育とデジタル革命』（有斐閣選書）</p> <p>他</p>			
<p>[教科書]</p> <p>桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2002年度版）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・地歴科教育法 (旧社会科教育法) (旧地理歴史科教育法)	01	通期	4単位	野尻 亘
[講義概要・学習目標] 学校教育現場では、いじめ・不登校・校内暴力・非行・差別などの諸問題に苦悩している。このような状況の中で、中学「社会科」・高校「地理歴史科」の教育や授業は、どのようにあるべきか。 単に知識や技能の伝達に留まらず、新しい学力観をふまえた上で、人権教育・平和教育・環境教育・開発教育・国際理解教育といったテーマについて、地理歴史教育の再構築を目指すこととする。 この授業は中学校社会科・高校地理歴史科教員免許取得の必修科目です。そのため模擬授業や討論など演習形式を採用して行います。教員免許取得の希望のない学生が履修しても苦痛となります。そのため、よく注意して履修手続きをしてください。	[講義計画] 1. 学校における教科教育 陶冶と訓育 2. 地理歴史科の目標 3. 地理歴史科のカリキュラム構成 4. 教育実習と授業実践 5. 授業指導案の作成 6. 地理歴史教育と人権学習・同和教育の実践 7. 学校地理教育・歴史教育の目標と課題 8. 生涯学習社会と地理歴史教育			
[成績評価の方法] 指定した書式にもとづく「授業指導案」をレポートとして作成し提出する。このことを単位認定の基礎条件とする。演習形式。	[参考文献] 文部省『高等学校学習指導要領』大蔵省印刷局 井原政純『社会・地理・公民科基礎論』多賀出版 永井滋郎・平田嘉三『社会科重要用語300の基礎知識』明治図書			
[教科書] 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』実教出版 文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』大阪書籍				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・地歴科教育法 (旧社会科教育法) (旧地理歴史科教育法)	02	通期	4単位	山崎 充彦
[講義概要・学習目標] 地理・歴史科の教員免許取得希望者の必修単位である。 知識の詰め込みに終始すると捉えられがちなこの教科の学習目標は、一体如何にあるべきかに留意しつつ、授業運営を行い、各自に模擬授業を行ってもらおう。 もっぱら教員免許取得希望者を対象にした演習形式の授業なので、教職希望しない者にとっては、あるいは苦痛を感じるかもしれない。 その点、留意の上、登録履修されたい。 なお、担当者の専門との関係上、歴史分野に重点をおきたいと思うが、地理分野に主たる関心を持つ者の登録履修も歓迎する。	[講義計画] 開講当初は、担当者が指導案作成などについて講義するが、この授業は、そもそもが教員免許取得希望者を対象とするものであり、履修者全員が模擬授業担当を義務づけられ、以下のような形で授業への積極的参加が要求される。 1. 各自がそれぞれ学習指導案を作成する。 2. その指導案に基づき、毎回一人に模擬授業を行ってもらおう。(50分授業) 3. その際、当日の出席者全員に対して、レジュメとして指導案および当日の授業資料を配布する。 4. 模擬授業終了後、出席者全員で、その授業の問題点について討議する。 ＝指導案そのものの問題点、模擬授業と指導案との相違点、授業の問題点等々。 5. 当日の出席者は、その模擬授業についてまとめ、当日ないしは翌週にレポートを提出する。 模擬授業担当の日時については、開講当初に相談の上、決める。 受講者の人数にもよるが、少数の場合、年に複数回、模擬授業の担当が当たることになるかも分からないので、その点、留意されたい。			
[成績評価の方法] 学習指導案の作成、模擬授業の内容、討論への参加、レポートの提出、これらにより、総合的に評価する。 模擬授業の担当は、単位認定の必須条件である。				
[教科書]	[参考文献] 文部省、『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』、実教出版			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・公民科教育法 (旧社会科教育法) (旧公民科教育法)	01	通 期	4 単位	飯 島 敏 文
[講義概要・学習目標] 社会科は第2次大戦後にはじめて登場した教科です。この半世紀、社会科のあり方については、さまざまな議論が戦わされてきました。このことは、社会科という教科が、それだけ多くの関心を集めている証でもあります。 本授業の前期においては主に社会科を取り上げ、社会科の成立、成立期社会科の意義、さらにはその後の議論を考えることを通して、現代社会科の可能性と限界を探ることとします。また後期においては主に公民科を取り上げ、公民科の成立、公民科の特徴、公民科の意義などを明らかにした上で、終戦直後の公民教育構想を振り返ります。前期及び後期においては、それぞれ、社会科の学習指導案及び公民科の学習指導案の作成に取り組みます。 とくに「社会科嫌い」の子どもの多く生まれている現実、社会科授業・公民科授業が魅力あるものになっていないことを証明しています。事実を覚えるのが社会科授業・公民科授業の目的ではありません。社会生活を理解すること、そして、その理解の上で建設的に行動できる人間を育てることが社会科授業・公民科授業には求められます。すべての教科にとって普遍的な事柄についても多く触れていく予定です。単なる社会科・公民科免許のための講義と思わずに、自らの授業観・教育観の転換をめざしていただきたいと思ます。既成観念にとらわれない学習指導案を考案してください。	[講義計画] 前1 社会科成立前史 前2 社会科の成立 前3 成立期社会科の特徴 前4 成立期社会科の意義 前5 成立期社会科の実践 前6 成立期社会科の課題 前7 社会科学習指導要領の変遷と現代社会科 前8 社会科学習指導案の作成 後1 公民科成立までの経緯 後2 公民科の成立 後3 公民科の特徴 後4 公民科の意義 後5 公民科の実践 後6 公民科の課題 後7 終戦直後の公民教育構想と現代公民科 後8 公民科学習指導案の作成			
[成績評価の方法] 出席, レポート, 期末試験と総合して評価する	[参考文献] 授業中にその都度紹介する			
[教科書] 必須 中学校学習指導要領 高等学校学習指導要領				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科・公民科教育法 (旧社会科教育法) (旧公民科教育法)	02	通 期	4 単位	宮 本 進
[講義概要・学習目標] 21世紀初頭の地球は交通手段の発達、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化などの急激な変化の最中にある。また、地球の幾つかの地域では、武力紛争中であり、日本もそれに巻き込まれている。地球の人口は約61億人、主権国家は190余である。そんな中で約13億人が1日1ドルで生きようとし、約8億人が飢えに苦しみ、約12億人が安全な水を飲めず、約10億人が読み書きが出来ないなど、すべてが豊かな生き方、暮らしが出来ている訳ではない。社会科・公民科は現代的な課題に向き合う重要な教科だと言える。教員という立場の人間としてどう向き合うのか、生徒達にどう向き合わせさせるのか。これを基本的問題意識として提起しつつ、教科の役割と目的、教育課程の変遷、新教育課程の内容や教授方法などを考察しながら社会科・公民科教育の在り方を研究する。講義だけでなく、討論や、発表、模擬授業などを充分に取り入れた参加型の授業にしたい。	[講義計画] 1. はじめに＝講義概要など 2. どんな社会に生きてるのか 3. 学校教育と生徒の現状 4. どんな教員になるのか 5. 戦後の中等社会科・公民科教育 6. 社会科・公民科の役割 7. 中等社会科・公民科教育の課題 8. ～10. 社会科新指導要領の内容と授業 11. ～13. 公民科新指導要領の内容と授業 14. ～15. 模擬授業の準備と学習指導案の作成 16. ～25. 模擬授業による授業研究 26. まとめ			
[成績評価の方法] 出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。	[参考文献] 授業の中で適宜紹介する			
[教科書] 授業ノート・資料などをプリントして配付する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語科教育法 I (旧英語科教育法)		通 期	4 単位	島田勝正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>英語教員志望者を対象とする。英語科教育の基礎理論を概観するとともに、その理論の教育実践への適用を考察する。授業内容は第二言語習得論、英語教育目標論、指導課程論(シラバス論、授業計画)、指導方法論、指導技術論(4技能、文法、語彙)、教材論、測定評価論、学習者論、教師論と多岐にわたる。</p> <p>単に理論の紹介に終始せず明日の教育実践を射程に入れたワークショップを展開する。その中で受講者は学習の促進としての指導は如何にあるべきかを探索することになる。その体験は授業案作成、マイクロティーチングとして具現化される。</p> <p>本講義の主たる目的は、中学校、高等学校、大学等で経験した英語教育や英語学習を基盤に作り上げた「思い込み(belief)」から解放し、望ましい英語授業のあり方を自己評価、自己点検するための視点、観点を提供することにある。</p> <p>問題意識をもって授業に臨んでほしいので、毎回「課題」提出を課す。課された分担作業は責任をもって果たすこと。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1. ガイダンス 2. 教授・学習・評価(教授の役割) 3. 第二言語習得論1(習慣形成理論と創造的構築) 4. 第二言語習得論2(学習転移) 5. 第二言語習得論3(誤答分析) 6. 第二言語習得論4(インプット仮説) 7. 第二言語習得論5(形式教授の役割) 8. 言語能力の分類 9. 文法教授(意識化活動) 10. 第二言語習得論6(有標性理論、教授可能性理論) 11. 目標論1(コミュニケーション能力) 12. 目標論2(学習指導要領) 13. 定期試験 14. コミュニカティブアプローチ1(機能シラバスと文機能分析) 15. コミュニカティブアプローチ2(指導法) 16. スピーキング(情報差活動) 17. リスニング(背景知識の活性化) 18. リーディング(発問の種類と方法) 19. ライティング 20. 語彙(記憶術) 21. 授業案、授業分析 22. テスティング1(妥当性、信頼性) 23. テスティング2(テスト項目改善、技能判断、項目分析) 24. マイクロティーチング1 25. マイクロティーチング2 26. 定期試験</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>*得点配分は以下の通り。(1)課題1回3点×12回=36点 (2)レポート24点 (3)定期試験40点</p> <p>*次のいずれかに該当する場合は単位を認定しない。(1)各学期2回を越えて欠席した場合 (2)定期試験を無断で欠席した場合 (3)レポートを提出しない場合</p>		<p>[参考文献]</p> <p>1. 白畑他(著)『英語教育用語辞典』大修館書店 1999 2. Richards, J., J.Platt and H.Platt (eds.) <i>Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics:Second Edition.</i> Longman. 1992 3. 青木(編)『英語授業実例事典 I, II』大修館書店 1990, 1994 4. 山田、望月(編)『私の英語授業』大修館書店 1996 5. 青木(編)『英語授業の組立て』開隆堂 1990</p>		
<p>[教科書]</p> <p>教科書:青木(編)『新しい英語科教育法』現代教育社 2002 Course Notes:島田勝正(編著) <i>Methods of Teaching English as a Foreign Language: Testing of Teaching (Third Edition)</i> (ガイダンス時に配布する。)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語科教育法II		通 期	4 単位	島田勝正
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「英語科教育法I」で得た知見を基盤に、英語科の指導と評価のシミュレーションを行う。</p> <p>具体的には、模擬授業(授業案作成—授業提案—授業観察—授業批評—授業案の改善—授業再提案の過程を経る)を通して、英語授業の構成能力を練磨する。また、テスト作成(妥当性、信頼性の高いテストの作成実習)、実技テスト(performance test)における評定者訓練(rater training)を通して、評価の観点と評価基準を明らかにする。</p> <p>すべての授業は、単に理論の紹介に終始せず、「教育実習」を射程に入れた課題中心のワークショップとする。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>1. ガイダンス 2. 英語授業案作成 3. -13. 英語授業研究 14. -20. 英語筆記テスト分析と作成 21. -23. 英語実技テストの評定者訓練 24-26. データ処理</p> <p>*受講生の数により変更も有り得る。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>*得点配分は以下の通り(1)授業参加48% (2)授業提案20% (3)レポート32%</p> <p>*次のいずれかに該当する場合は単位を認定しない。(1)各学期2回を越えて欠席した場合 (2)授業提案をしない場合 (3)レポートを提出しない場合</p>		<p>[参考文献]</p> <p>1. 白畑他(著)『英語教育用語辞典』大修館書店 1999 2. Richards, J., J.Platt and H.Platt (eds.) <i>Longman Dictionary of Language Teaching and Applied Linguistics:Second Edition.</i> Longman. 1992 3. 青木(編)『英語授業実例事典 I, II』大修館書店 1990, 1994 4. 山田、望月(編)『私の英語授業』大修館書店 1996 5. 青木(編)『英語授業の組立て』開隆堂 1990 6. Hughes, A. <i>Testing for Language Teachers.</i> Cambridge University Press 1989 7. Heaton, J.B. <i>Writing English Language Tests: New Edition.</i> Longman. 1988 8. Brown, J.D. <i>Testing in Language Programs.</i> Prentice Hall Regents. 1996</p>		
<p>[教科書]</p> <p>教科書:青木(編)『新しい英語科教育法』現代教育社 2002 Course Notes:島田勝正(編著) <i>Methods of Teaching English as a Foreign Language: Testing of Teaching (Third Edition)</i> (英語科教育法Iで使用したもの)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
商業科教育法 (旧商業科教育法(2))		通 期	4 単位	松 原 勇
[講義概要・学習目標] 現代の経営革新時代のなかで商業科教員を目指す学生を対象とした高等学校教員免許取得のための必修科目である。 激動する変化社会の商業教育は、グローバル・スタンダードを基本にして、国際化・情報化に対応できる人材の育成が急務である。近年、特に優れた職業倫理を身につけ、「心の充実」「思考力の強化」「高度な専門的な知識・技術」等の習得が不可欠である。学習指導要領では、21世紀に生きる人材は「豊かな人間性」「一人一人の個性」を生かす能力を十分に伸ばさせることを大きな目標としている。その趣旨を踏まえ、将来教育に携わる者は、常に教育理念を念頭におきながら、商業教育の本質に立脚した姿勢と自覚をもって臨まなくてはならない。 本講は、教育者としての人間力を磨くと共に産業社会の現状と将来の商業教育を展望しつつ、教育上の本筋を究明する。特に年間指導計画、毎時の学習指導案の作成、学習指導法、模擬授業など教育者が修得すべき方法論を重点的に網羅して講義する。	[講義計画] 1 商業教育の意義と目的 2 商業教育の変遷 3 現在の高等学校の商業教育 4 商業教育における国際化と情報化 5 教育課程の編成 6 学習指導法(模擬授業の展開) 7 学習指導計画と教育評価 8 教員の資質能力と研修制度 9 職業資格制度と検定試験制度 10 今後の商業教育の展望等			
[成績評価の方法] 主として、出席を厳しく重視して評価する。なお、模擬授業の実践面の評価、期末試験なども勘案のうえ、総合評価とする。	[参考文献] 高等学校学習指導要領解説(商業編)			
[教科書] 松 原 勇(編著)「商業科教育法」(ぎょうせい)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
道徳教育の研究		秋学期	2 単位	徳 永 正 直
[講義概要・学習目標] 近年マスコミを賑わしている未成年者による凶悪犯罪や、援助交際、オヤジ狩り、学級崩壊、いじめ等の子どもたちの「荒れ」に対処するために、道徳教育のなお一層の充実強化が求められている。しかし、「道徳」授業の評判はあまり良くないようである。そこで何故「道徳」授業がつまらないのかを考え、子どもたちの問題行動の背景と原因をアリス・ミラーらの「反教育学」をひとつの手がかりとして考察し、道徳性発達の理論に依拠した「道徳」授業の可能性を、教育的タクト論の視点から検討する。 とかく問題が多いとされる「道徳」授業や道徳教育の課題設定のあり方について、各自が自分自身の見解を持つようになることが目標である。	[講義計画] ①「教育」の重要性と危険性 ②「道徳」授業批判 ③子どもの問題行動を考える。1980年以後の問題行動の変遷 ④アリス・ミラーの「反教育学」の立場から ⑤道徳教育の課題 学習指導要領の解説と問題点 ⑥道徳性発達の理論 ビアジェ、コールバーグ等 ⑦ジレンマ資料に基づく「道徳」授業の意義と問題点 ⑧実際の授業の展開(ビデオ視聴) ⑨教育的タクトによる「道徳」授業の可能性 ⑩賞罰問題と子どもの人権 ⑪この講義の総括と今後の課題の提示 なお、④⑥⑨についてはそれぞれ二時間かけて解説する。			
[成績評価の方法] 定期試験で評価する。	[参考文献]			
[教科書] 徳永・堤・宮嶋著『対話への道徳教育』(ナカニシヤ出版、1997年)	講義中にそのつど指示する。			

資格
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
特別活動論	01	秋学期	2単位	小島 孝敏
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>文部省は、中央教育審議会や教育課程審議会の答申を受け、「心の教育」の重要性を指摘し、「知識を教え込む教育から個性を尊重し生きる力を育む教育」への転換を目指す改革方針を打ち出しました。現場の創意工夫を重視した新学習指導要領が改定告示され、小・中学校では平成14年度から全面実施、高等学校では平成15年度から学年進んで実施されます。大阪府教育委員会も「教育改革プログラム」を発表し、再構築のための具体的な方策を提示しています。</p> <p>学校現場では、2002年から始まる新指導要領に向けての、移行措置を前提とした諸活動の再吟味や見直しが行われました。学習内容が、1/3に削減され教科書もスリム化し、総合化という「総合的な学習活動」の教科も新設されました。いよいよ、学校週5日制を見据えた、教育課程の編制による授業展開が実施されます。</p> <p>「学級活動、児童・生徒会活動、クラブ活動、学校行事」で構成される特別活動は、集団活動を通じて調和のとれた豊かな人間形成に、重要な役割を果たしている。特に、①ガイダンス機能の充実。②自然体験や社会体験の充実。③国際協調精神を培うことが強調されています。その教育目標の意図するところは、現代社会における閉ざされがちな子どもたちに、生活経験を開き、社会関係能力の向上や改善を求める事にあります。その実現のためには、まず教師自身が、目標で求められている諸能力を獲得する必要があります。現実の子どもたちを指導するための「理論と実践力」を持たなければなりません。</p> <p>この授業では、改定の趣旨を学びながら、受講生自らの社会関係能力を涵養すると共に、特別活動の教育目標と内容を実践する場となります。基礎・基本については、人権と生徒指導の視点をベースにし、「各学校の特色ある取組」の学習では、現場と交流して見学・観察・補助活動などの実地体験的学習も採り入れてすすめます。</p> <p>従って、地域と連携（保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・関係機関等）し、限られた授業回数の中で集約的に展開するので、全出席を守り遅刻や早退のないことが望ましい。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業びらき：オリエンテーション。 ① 学習計画・グループ班分け等。 ② 大阪の教育の現状と課題等。 2. 新教育課程と改革の試み。 ① 歩みと改定の主旨。 ② 特別活動の内容と目標。 ③ 学校週5日制と総合的な学習活動の対応。 ～〔国際化・環境問題・少子高齢化社会等〕。 3. 各領域別の改革のポイント。 〔学校行事・クラブ活動・学級活動・生徒（児童）会活動〕。 4. 各学校の特色ある取組の事例～「あんな学校・こんな学校」VTR等。 5～8. 体験学習「実地交流活動」～見学・観察・発表・補助活動等。 9～10. 総合的学習の演習～特色ある活動の取組と実践例・ゲスト講話等。 11. まとめ・班別プレゼンテーション等。 12. テスト。 <p>☆課題レポート。 特別活動のうち、具体的な内容について一つ以上のプログラムに参加し、観察補助活動を行う。その模様をレポートして提出する。書式は別に指定する。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席回数、授業内での小レポート、課題レポート、期末考査の結果等を総合して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価はしない。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>授業中にプリントを配付する。 その他 授業の中で適宜紹介する。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>特になし。 必要なプリント類は、その都度用意する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
特別活動論	02	秋学期	2単位	宮本 進
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>21世紀初頭の地球は交通手段の発達、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化などの急激な変化の最中にある。また、幾つかの地域では武力紛争中であり、日本もそれに巻き込まれている。さらに、少子化、核家族化などが進むなかで、集団活動や人間関係をつくることが得意な生徒が増加していると言われる。これが生徒達の問題状況を生む背景ともなっている。特別活動は教科指導とともに教育課程に位置づけられている。その内容としてはホームルーム活動（中学校では学級活動）・生徒会活動・学校行事から構成される。目的は「集団や社会の一員としての態度を養うとともに、自己を生かす能力を養うこと」とされる。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、それぞれの内容について具体的な諸実践を考察し、特別活動のあり方を研究する。講義だけでなく討論、発表等を取り入れた参加型の授業にしたい。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめにー講義計画など 2. 新指導要領における特別活動の目標と内容 3. ～ 5. ホームルーム活動の実際とその基本的視点 6. ～ 8. 生徒会活動の実際とその基本的視点 9. ～ 11. 学校行事の実際とその基本的視点 12. 必修クラブの廃止と部活動の意義 13. まとめ 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>授業の中で適宜紹介する</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>授業ノート・資料などをプリントして配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生徒指導法	0 1	春学期	2 単位	辻 川 信 孝
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>今、学校は様々な問題を抱えている。いじめ、不登校、学級崩壊、校内暴力、高校中退など生徒指導上の問題が多発し、学校教育のあり方が問われている。一方、新しい教育のあり方が議論され、個性重視、生きる力の育成、学校週5日制への対応等、生徒指導の新しい課題も指摘され、教育改善の取り組みがすでに始まっている。</p> <p>このような状況の中で、教育実践者に、これら生徒指導上の問題の本質をとらえる目と個々の子どもに必要な援助方法を身につけることが求められている。</p> <p>本授業では、学校現場の事例を中心に、参加型の授業を進めていきたい。事例から、問題の本質を見つけ、自分なりの考えをまとめ、グループワークにより、問題解決に向けての考え方（法則性）を習得してもらいたい。</p> <p>併せて、数多くの事例に接することにより、適切な対応（生徒指導の技術）と子どもたちに接する姿勢（生徒指導の心）を学びとってほしい。</p>	<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業開き、授業方法 2. 教育改革の流れ、「生徒指導」とは 3. 事例研究(生徒指導上の諸課題とその対応) <ol style="list-style-type: none"> ①対人関係能力の低下 ②いじめ ③不登校 ④授業崩壊、学級崩壊 ⑤校内暴力 ⑥性に関する問題行動 4. 「やる気を起こさせる」生徒指導 <ol style="list-style-type: none"> ①楽しい授業づくり ②生き方としての進路指導・職場体験学習 ③地域連携、校種間連携 ④学校カウンセリングの基礎と演習 5. まとめ 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>出席状況、期末の最終レポートの結果を総合的に評価して行う。但し、2/3以上の出席がなければ評価しない。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>授業の中で適宜紹介する。</p>			
<p>【教科書】</p> <p>毎時間、プリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生徒指導法	0 2	春学期	2 単位	宮 本 進
<p>【講義概要・学習目標】</p> <p>21世紀初頭の地球は交通手段の発達、情報技術の進歩、経済活動の多国籍化などの急激な変化の最中にある。また、幾つかの地域では武力紛争中であり、日本もそれに巻き込まれている。生徒達は将来への予測が難しく、目標が見えにくい。特に、将来の進路への漠とした不安の中にある。それが生徒達の種々の問題状況を生む背景ともなっている。生徒指導は教科指導以外の指導のことであり、その内容は学業指導・進路指導・個人的適応指導・社会性指導・余暇指導・健康、安全指導などの領域がある。究極の目的は「自らの生き方を構築する力の育成」にあると言える。受講生自らがこの力をどう養うのかを提起しつつ、生徒達の状況を踏まえ、進路指導の領域を中心に各領域について具体的な諸ケースの実践を考察し、生徒指導法のあり方を研究する。講義だけでなく討論、発表等を取り入れた参加型の授業にしたい。</p>	<p>【講義計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに - 講義計画など 2. 教員達を取り巻く状況 3. 生徒達を取り巻く状況 4. 生徒指導とは何をするのか 5. 生徒を理解し生徒に自己を理解させるとは 6. ~ 8. 生徒指導の実際と原理・原則 9. ~ 12. 進路指導の実際と原理・原則 13. まとめ 			
<p>【成績評価の方法】</p> <p>出席回数、授業内での発表、小レポート、期末レポートなどを総合して行う。但し2/3以上の出席がない場合は評価しない。</p>	<p>【参考文献】</p> <p>授業の中で適宜紹介する</p>			
<p>【教科書】</p> <p>授業ノート・資料などをプリントして配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
教育相談	01 02	春 学 期 秋 学 期	2 単 位 2 単 位	林 陸 雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>中央教育審議会の答申に示された目標「『生きる力』を身に付け、新しい時代を切り拓く積極的な心、正義感・倫理観や思いやりの心など豊かな人間性をはぐくむ」方策と呼応するのが、教員免許法の改定であり、新設された必修科目「教育相談」である。</p> <p>現代社会の諸矛盾は直接・間接に子どもたちの生活に影響し、子どもたちを強いストレス下においている。その結果として、様々な神経症や心身症が小学生段階から現出している。これらの諸現象は、本人または家族に起因するとみられ勝ちであり、いっそう子どもたちを追いつめ苦しめている。</p> <p>子どもたちが抱え込んでいる諸問題を教育相談という観点からとらえ直し、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育相談活動として位置づけたい。その機能を遂行するための基礎・基本について概説する。履修する以上、必ず教職に就くという強い目的意識を持って受講すること。</p> <p>なお、より理解を深めるために体験学習をも採用する予定である。教育相談機関での参観と実習も課外プログラムとして組む予定である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業びらき・生徒指導・教育相談とは 2. 生徒指導の体制・教育相談の体制 3. 問題の把握・問題の理解 4. 教師・生徒関係 5. 学校不適應・いじめと孤立 6. 神経症・心身症 7. 非行・勉強嫌い・無気力 8. カウンセリング 9. カウンセリング 10. 行動療法 11. 交流分析 12. 家族療法 13. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。 ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に、適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>高野清純 監修 佐々木雄二 編 『図でよむ心理学 生徒指導・教育相談』 福村出版</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
教育実習	01 02 03	春 学 期 春 学 期 春 学 期	3 単 位 3 単 位 3 単 位	島田勝正 冷水啓子 林 陸 雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>教育実習とは、教職課程で履修してきた学習内容を現実の教育現場に立って実地に検証するものである。これは、実習校での実地実習（2週間）とその前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」により求められた3単位となる。</p> <p>はじめは、学内での事前実習において、教育実習に臨むための基礎的な条件を再確認し、授業に必要な基本的理論と技術を習得する。次いで、教育の現場で、教員としての社会的責任を自覚したうえで、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを実地に体験する。そこでは、実習上の要件を満たせない場合は、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価をしてもらえなくなることもあるので、学校長をはじめ各教員による指導にしたがい、慎重に行動すること。第三に、再び学内に戻ってからの事後実習では、自己の実習経験をふまえて模擬授業に臨む。また、他の実習生や本学卒業生の体験談などをもとに実地実習内容を再点検し、教職課程全体についての自己評価を行う。</p> <p>なお、この教育実習では、一貫して、教師としての基礎的条件に関する実地訓練がその基盤となる。したがって、事故または疾病などによる正当な理由がないかぎり、遅刻・早退・欠席は認められないので注意すること。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 事前実習：模擬授業 3. 事前実習：模擬授業 4. 事前実習：模擬授業 5. 事前実習：模擬授業 6. 事前実習：模擬授業 7. 事前実習：模擬授業 8. 実地実習 9. 実地実習 10. 事後実習：模擬授業 11. 事後実習：模擬授業 12. 事後実習：模擬授業 13. 事後実習：本学卒業の教員による講話 14. まとめ 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>実習校による評価表、実習簿、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会で総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>池田, 酒井, 野里, 宇井 (編著) 『教育実習総説』 (学文社) 白井, 寺崎, 黒澤, 別府 (編著) 『教育実習57の質問』 (学文社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>桃山学院大学教職課程委員会 (編) 『教職をめざして——教職課程履修ガイド [1996年度改訂版] ——』</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
同和教育論	01	通 期	4単位	黒 田 伊 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今年では日本の人権宣言とも言うべき全国水平社宣言が出されてから80年の節目の年である。また、「人権教育及び人権啓発の推進法」が制定され、人権教育の広がりや深さを支える同和教育のあり方が問われている。</p> <p>前期は差別とは何か、部落差別の現実と闘いの歩みから、部落解放の方策を明らかにする。</p> <p>後期は、同和教育の歩みから融和教育、同和教育、解放教育の違い。「いじめ」を克服する同和（解放）教育のあり方及び部落悲惨史論・低位性論を克服する部落問題学習のあり方を考察し、部落問題の教科書記述批判や学習教材、集団主義と仲間づくり、学力保障と進路保障、反戦平和教育と部落問題など、反差別・人権教育の現状と方向性を明らかにする。</p> <p>教員採用試験の同和・人権教育関係問題の演習を行う。</p> <p>教科書、補充プリント、映像資料を用いる。</p> <p>前期は島崎藤村の「破戒」の課題研究と読書感想文。原作と映画との比較についてのレポート提出を課す。</p> <p>後期は「いじめ」を克服する教師のあり方についての資料によるレポートを課す。</p> <p>人権教育（部落問題）の履修が望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>(前期)</p> <p>(1) 「人権教育のための国連10年」と同和教育 (2) 人権とは何か、差別とは何か 差別と偏見 (3) 部落差別の現実と本質―部落差別が今も続いている理由 (4) 部落の起源と部落差別との闘いの歴史 (5) 部落の起源と身分制度、洗染一揆、全国水平社の教科書記述の検討 (6) 部落解放の方策と同和（解放）教育の課題</p> <p>(後期)</p> <p>(1) 戦前の融和教育と戦後の同和教育の歩み (2) 同和教育、解放教育とは何か (3) 「いじめ」を克服する同和教育 (4) 部落問題学習の基本視点と反差別集団の形成 (5) 部落悲惨史論を克服する教材研究 (6) 教員採用試験の同和・人権関係問題の演習</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期はテストと「破戒」に関するレポートと出席点で評価する。</p> <p>後期はテストと「いじめ」に関するレポートと出席点によって評価する。</p> <p>出席を重んじる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>黒田 伊彦 (著) 『部落史紀行』 (拓植書房新社) 中野 陸夫・池田 寛・中尾 健次・森 実 (著) 『人権教育をひらく 同和教育への招待』 (解放出版社) 部落解放研究所 (編) 『戦後同和教育の歴史』 (解放出版社) 藤田 敬一 (編) 『「部落民」とは何か』 (阿吽社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>黒田 伊彦 (編著) 『部落問題・人権・同和教育教材集』 (拓植書房新社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
同 和 教 育 論	02	通 期	4単位	寺 木 伸 明
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、まず同和教育とはどのような教育をいうのかを説明し、そしてそもそも同和教育は必要なのか、ということについて共に考えてみたい。</p> <p>次に、現在、部落の子供たちをとりまく、生々しい差別の実状について、ビデオなどを見ながら理解を深めていきたい。そうした現実を踏まえて、現在、小学校・中学校・高校でどのような同和教育の実践が行われているのかを説明する。その際、中学校と高校の先生にゲスト講師としてきていただき、教育現場での取り組みの現状を報告していただく予定である。</p> <p>つづいて、同和教育の歴史、部落問題学習の実際を進め方などについて、最近の研究成果を踏まえて講義する。</p> <p>後期の後半は、グループごとに部落問題学習に関する模擬授業を行ってもらおう。</p> <p>なお、できるだけ「世界市民（現代社会と人権問題）」の講義を履修しておくことが望ましい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1 同和教育とは何か 2 同和教育は必要か 3 被差別部落の子供をとりまく差別の現状 4 中学校における同和教育の実践（ゲスト講師予定） 5 高校における同和教育の実践（ゲスト講師予定） 6 同和教育の歴史 7 部落問題学習の進め方 8 同和教育の成果と課題 9 部落問題学習の模擬授業（グループで）</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期のレポートおよび学年末の試験の成績を基本にして出席点（適宜、出席カードに簡単な感想を書いてもらう）を加味して総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>寺木伸明・野口道彦編『部落問題論への招待 資料と解説』解放出版社</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中野陸夫・池田寛・中尾健次・森実『同和教育への招待』解放出版社</p>				

資格
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
視聴覚教育		秋学期	2単位	冷水啓子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>情報化社会の進展に伴って、人々を取りまく教育・社会的環境が急速に変化しつつある。家庭、学校、地域社会において、ケーブル・テレビ、衛星放送、字幕番組などの普及により、テレビ利用の選択肢がさらに広がった。また、さまざまな電子メディアが導入され、日常的にそれらに接する機会が増えた。コンピュータ・ネットワークやインターネットを通じて、情報の検索や受信を行うだけでなく、情報発信さえも容易にできるようになり、時間や空間を越えた幅広いコミュニケーション活動が可能となった。そのため、このような視聴覚メディアを媒介として情報を適切に理解し、利用し、産出する能力（マルチメディア・リテラシー、情報活用能力、情報倫理など）の育成が、新たな教育課題として重要視されるようになった。</p> <p>そこで、この「視聴覚教育」では、「視聴覚教育とメディア」に焦点を絞り、視聴覚教育メディアの発展と特徴、それらを活用した学習支援の方法を検討する。さらに、それらの利用に際する問題点およびその教育的可能性と限界についても考察を行う。具体的には、はじめに講義中心の授業を行い、つぎにコンピュータ実習（電子メール、インターネット、文章作成ソフト、表計算ソフトなどの利用）およびプレゼンテーション教材の作成を行う。</p> <p>なお、授業に関連する資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などを通じて適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。</p>	<p>1. 視聴覚教育および視聴覚教育メディアの変遷</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 視聴覚教育および視聴覚教育メディアとは何か 2) 活字・印刷物の利用：テキスト、絵本、児童書など 3) テレビとビデオの利用：その利用形態と社会・教育的役割 <ol style="list-style-type: none"> ①幼児教育番組 ②字幕や手話通訳つき番組 ③子どもの発達や健康への影響 <p>2. コンピュータの発展と教育利用（コンピュータ実習を含む）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コンピュータ・ゲーム：子どもの発達と学習への影響 2) コンピュータの教育利用：CAI、CMI 3) 電子メールやインターネットの利用 4) コンピュータ・リテラシーや情報活用能力の育成 5) コンピュータ利用をめぐる教育・社会的諸問題 <p>3. 視聴覚教育メディアの活用：プレゼンテーション教材の作成</p> <p>[但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある]</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>出席および授業への参加を重視する。学期末に、作成したプレゼンテーション教材およびレポートの提出を求める。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。</p>	<p>情報教育学研究会 他（編）『インターネットの光と影』（北大路書房） 水越敏行・佐伯胖（編）『変わるメディアと教育のありかた』（ミネルヴァ書房） 永田元康 他（著）『情報教育概論』（コロナ社） 中島義明（著）『映像の心理学—マルチメディアの基礎—』（サイエンス社） （財）日本視聴覚教材センター（編）『視聴覚教材メディアの活用』 野津良夫（編）『視聴覚教育の新しい展開（第2版改訂版）』（東信堂） 高島秀之（編）『教育とデジタル革命』（有斐閣選書）</p>			
[教科書]	他			
<p>桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2002年度版）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
生涯学習概論	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	伊藤正純
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>1960年代以降、ユネスコ等の国際機関で生涯教育・生涯学習が提唱されてきたのは、先進国では急速な技術革新と高齢化に伴って、また後進国では貧困から脱出するためにある。本講義では、このような国際的動向を踏まえて、生涯学習大国・スウェーデンの事例（リカレント教育、労働市場プログラム、国民高等学校、高い成人学生の割合、学生ローン制度、教育休暇制度、学習サークル等）を紹介し、それとの対比で日本の「生涯学習社会」とその現状（社会教育と生涯学習、学社連携、大学拡張＝エクステンション、自治体の生涯学習事業、市民大学等）を明らかにする。</p>	<p>1. 生涯学習とは何か ユネスコの生涯教育論、OECDのリカレント教育論</p> <p>2. 生涯学習の国・スウェーデンでの実践 労働市場プログラム、リカレント教育、コミュニケーション成人教育、国民高等学校、高い成人学生の割合、学生ローン制度、教育休暇制度、成人教育奨学金制度、学習サークル</p> <p>3. 日本の「生涯学習社会」とその現状 (1) 聴教育答申、生涯学習振興法 (2) 生涯学習機関としての大学 (3) 地方自治体の取り組み</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
<p>司書および学芸員資格取得科目であるので、出席を重視する。毎回、授業の感想を書いてもらう。評価は8割をこの感想文で、2割を期末の試験で行う。なお、20分を超えた遅刻は認めない。</p>	<p>1. 黒沢惟昭他編『苦悩する先進国の生涯学習』社会評論社 2. 赤尾勝己『生涯学習概論』関西大学出版部 3. 倉橋史郎・鈴木真理編『生涯学習の基礎』学文社 4. 相庭和彦『生涯学習から地域教育改革へ』明石書店 5. 森岡孝二他編『21世紀の経済社会を構想する』桜井書店</p>			
[教科書]				
<p>使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館通論		春学期	2 単位	志保田 務
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>図書館、図書館情報学のおおよそについて平易に概説する。まず、図書館は何をやるべきかを把握し、その果たす役割について考える。そこで情報と図書館の関係、社会と図書館の関係、生涯学習社会について検討する。次に図書館を構成する要素を確かめる。図書館の要素は、図書→資料→情報、館（建物）→図書館システム、図書館員→司書（専門職員）→利用者（住民）の4点に分かれるが、本講義では、利用者（住民）および図書館システムに焦点をおく。そこでは図書館サービスが追究の対象となる。各種の館種のうちここでは公共図書館を中心に論じる。また、「図書館の自由」や図書館経営、図書館の情報化、図書館世界の将来等について検討する。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館とはなにか 2. 図書館の果たす役割 3. 情報の伝達と図書館 4. 社会、生涯学習と図書館 5. 図書館の構成要素 6. 図書館の種類（館種） 7. 公共図書館：理念 8. 公共図書館の歴史と現代 9. 公共図書館の利用者 10. 図書館の自由 11. 図書館経営 12. 図書館と情報化 13. 図書館の将来。テスト 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>テスト 80% レポート 20%</p>	<p>〔参考文献〕</p>			
<p>〔教科書〕 志保田務編著『図書館概論』（樹村房）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館経営論		秋学期	2 単位	志保田務
<p>〔講義概要・学習目標〕</p> <p>図書館の経営について学ぶ。図書館の経営とはどういうことであろうか。それぞれの図書館は、他の図書館と比べると何らかの違いを有する。資料に着眼した場合、蔵書量の豊かな図書館があり、あるいは幅広く雑誌・新聞を集めている図書館がある。図書館活動に着目すると、資料貸出し量重点の図書館が多いが、他方にレファレンス、集会など施設を拠点として活動する図書館がある。施設面に注目すると、大きな本館を築き活動する図書館がある一方、分館の設置や、移動図書館に力を入れる図書館がある。専門の司書をそろえた図書館がある一方、人材派遣に頼る図書館もある。これらは公共図書館を土台にした例であるが、大学、学校図書館の事情は随分異なる。また多様である。</p> <p>このような、図書館ごとの特徴は多分に伝統など過去に起因している。だがそれならば、近未来の各図書館像の如何は現在の図書館経営者の策・実行にかかるといえる。各館はサービス計画を立て、実行に移す。その間には経費（人手、資料等）の予算化が必要となる。最後に活動の効果測定、計画の評価をし、次の対策に入る。図書館経営論ではこうしたことについて考える。</p>	<p>〔講義計画〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「図書館経営論」ガイダンス（講義計画説明） 2. 「図書館経営論」の位置付け（図書館法施行規則における） 3. 「図書館経営」の意味、意義・必要性 4. 図書館経営論の沿革 5. 図書館経営の原則 6. 図書館サービス計画と経営計画 7. 図書館の経営資源（人、資料・施設、予算） 8. 図書館経営管理方策 9. 図書館の経営管理組織 10. 館種別考察 11. 図書館活動及び図書館経営の評価 12. まとめ。またはテスト（大学行事等で13回目が設定できない場合） 13. テスト 			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>テスト 80% 課題 20%</p>	<p>〔参考文献〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高山正也編著『図書館・情報センターの経営』（勁草書房） 2) 高山正也編著『図書館経営論』（樹村房） 			
<p>〔教科書〕 使用しない（プリント等による）。ただし参考文献：1）はテストに近い位置にある。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館サービス論		春学期	2 単位	西 田 文 男
[講義概要・学習目標] わが国の図書館は、図書館法によって大きく変わった。図書館サービスとはなにか、種々のサービスを取り上げ、その意義と内容を解説する。(ただし、児童サービス及びレファレンスサービスは除く)	[講義計画] 1. 図書館サービスの理念と意義 2. 図書館サービスの計画と評価 3. 図書館活動の発展 4. 図書館サービスの現状と種類 5. 図書館図書館づくりの政策と運動 ※理解を深めるため、必要に応じてビデオを上映する。			
[成績評価の方法] 定期試験の成績によって評価する。	[参考文献] その都度指示する。			
[教科書] 塩見 昇「図書館サービス論」 教育史料出版会				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報サービス概説		春学期	2 単位	西 田 文 男
[講義概要・学習目標] 図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。	[講義計画] 1. 情報サービス一般の広がり、図書館が行う情報サービスの位置づけ 2. 図書館における情報サービスの意義と種類 3. 情報および情報検索行動についての基本的理解 4. レファレンスプロセス 5. 情報検索サービスの方法・プロセス・評価 6. 重要な参考図書、テキストの解説と評価 7. 参考図書およびその他の情報源の組織 8. 各種情報源の特徴と利用法 ※理解を深めるため、必要に応じてビデオを上映する。			
[成績評価の方法] 定期試験の成績によって評価する。	[参考文献] その都度指示する。			
[教科書] 西田文男監修 志保田 務・平井尊士編著 「情報サービス：概説とレファレンスサービス演習」 学芸図書				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報サービス演習		秋学期	1 単位	西 田 文 男
〔演習概要・学習目標〕 参考図書その他の情報源の利用や作成、レファレンス質問の回答処理の演習を通して実践的な能力の養成を図る。	〔演習計画〕 タイプの異なる各種の演習問題を課し、回答を作成し発表してもらう。 1. 図書に関する質問 2. 逐次刊行物に関する質問 3. ことばに関する質問 4. ことからに関する質問 5. 歴史に関する質問 6. 地理に関する質問 7. 人物・団体に関する質問 8. 総合質問			
〔成績評価の方法〕 定期試験の成績と回答発表の内容等によって評価する。	〔参考文献〕 その都度指示する。			
〔教科書〕 西田文男監修 志保田 務・平井尊士編著 『情報サービス：概説とレファレンスサービス演習』 学芸図書				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
情報検索演習	01	春学期	1 単位	志保田務
〔演習概要・学習目標〕 現代社会は、情報化、コンピュータ化のただ中にある。オンライン、オンデスクのデータベースは図書館にとって常識化している。データベースに関する知識と、その扱いについてここでは学ぶ。さらに検索の専門家サーチャーへの登竜門となる情報検索基礎能力試験をも目指す。 各分野の専門家によるインテグレーション授業として、INFOST（情報科学技術協会）の中心メンバーの指導を受ける。第2回目以後の授業では、情報センターのコンピュータ演習室を使用する。 この授業の受講を始めるには、第1回講義までに、次の条件を満たしておくこと。 1 パソコンキーボードの操作、入力ができる。 2 E-MAILの受発信ができる。	〔演習計画〕 1. 情報検索演習概説 2. 情報処理基本技術 3. 検索式（コマンド） 4. 一次情報と二次情報 5. 図書情報、雑誌・新聞記事の検索 6. 企業、人物情報とその検索1（日本のDB） 7. 企業、人物情報とその検索2（外国のDB） 8. 医学薬学情報とその検索 9. 特許情報とその検索 10. 生活情報とその検索 11. 情報検索と英語 12. サーチャー試験案内 13. まとめ			
〔成績評価の方法〕 テスト70% 課題 20% 出席 10%	〔参考文献〕 志保田務編著『情報機器論・特論：メディアの活用』（第一法規）			
〔教科書〕 『情報管理入門』第5版（情報の科学と技術協会） ①生協にて一括購入し販売する				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報検索演習	02 03	春学期 秋学期	1単位 1単位	中 崎 修 一
[演習概要・学習目標]	[演習計画]			
<p>現在、多様化した情報資源を活用する能力は必須となっている。特に、ネットワークを利用することで、場所を移動することなく、世界中の様々な情報源から必要な情報を瞬時に収集できるようになった。</p> <p>本演習では、情報の読み方や多種多様な情報の検索を通じて、情報源の調査、情報収集の手法と多様化した情報源へのアクセス法の習得を図ると同時に、実践的な技術の習得を図ることを目的とする。</p> <p>レポート提出および連絡を電子メールで行うため、基本的なパソコンおよび電子メールの利用を習得していることを前提とする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報化社会と情報メディア 2. 情報検索概説 3. 一時情報と二次情報 4. データベース基礎 5. 情報検索の論理 6. インターネットと情報検索 7. 情報検索の実際：図書情報 8. 情報検索の実際：雑誌情報 9. 情報検索の実際：新聞情報 10. 情報検索の実際：学術情報 11. 情報検索の実際：その他 12. まとめ 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
課題提出、筆記試験、出席から総合的に判断する	志保田務・平井尊士編著『情報機器論・特論：メディアの活用12章』（第一法規） 『情報検索の基礎』第2版（情報科学技術協会） 『最新オンライン情報源活用法』（日外アソシエーツ）			
[教科書]				
志保田務・平井尊士・中崎修一編著『情報活用術：情報検索・情報処理の要々実行－サーチャシステムアドミニストレータへの入門路－』（学芸図書）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書館資料論		秋学期	2単位	濱 崎 邦 子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>図書館を構成する要素の中で最も重要な図書館資料の実態と特質を論じ、収集と利用、選択と出版流通の問題点を明らかにするとともに、受入業務、資料管理などについて講述する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 図書館資料とはなにか 2. 図書館資料の種類 3. 図書館資料と図書館の自由 4. 図書館資料の種類と特質 5. 資料の出版と流通 6. 資料の評価と選択 7. 資料の収集 8. 蔵書構成 9. 資料の受入 10. 資料管理 11. まとめ 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
定期試験	志保田 務 [ほか] 編著 『資料・メディア総論－図書館資料論・専門資料論・資料特論の統合化』 学芸図書			
[教科書]				
馬場俊明編著 『図書館資料論』 日本図書館協会（JLA 図書館情報学テキストシリーズ7）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
専門資料論		春学期	2 単位	松永 俊男
<p>[講義概要・学習目標] 人文科学、社会科学、自然科学の各分野の学問としての特徴、および各分野の文献の特徴と種類について解説する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学術文献とはなにか 2. 分野の特徴と学術文献 3. 学術雑誌の特徴 4. 学術文献の歴史 5. 雑誌 <u>nature</u> について 6. 学術における不正 7. 二次資料について 8. 百科辞典について 			
<p>[成績評価の方法] 平常点と最終テストを総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料目録法		春学期	2 単位	北 克 一
<p>[講義概要・学習目標] 図書館は資料・情報を収集・整理・保存し、提供する社会的記憶装置である。図書館活動を基礎で支える資料・情報の組織化について、その意義の理解を進め、実務で用いるツール等の基礎知識を獲得することを目的とする。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 書誌コントロールと資料組織化の目的と意義、歴史 2. 目録の機能、目録規則の構成原理、その適用。 3. 典拠コントロールの目的と機能 4. 書誌データと典拠ファイル 5. 機械化、総合目録、インターライブラリー・ローンへの展開 6. 電子ジャーナル、電子図書館 7. まとめ 			
<p>[成績評価の方法] 期末テストおよび小レポート</p>	<p>[参考文献]</p> <p>日本図書館情報学会研究委員会編『電子図書館』勉誠出版 2001 井上如 [ほか] 著『学術情報サービス—21世紀への展望—』丸善 2000 向山博 [ほか] 著『インターネット情報流通技術』オーム社 2000</p>			
<p>[教科書] 志保田務・高鷲忠美『資料組織法』第4版 第一法規出版 2000</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料分類法		春 学 期	2 単 位	吉 田 憲 一
[講義概要・学習目標] 「Books are for use」(インドの分類学者ランガナタンの図書館学の第一法則)との余りに当然と思われる命題も真となつてまだわずか百数十年を経過するにすぎない。膨大な図書館資料を迅速かつ有効に利用できるためには、図書館資料の排架方法を知り、主題から資料にアクセス(検索)するための理論を会得することが第一に必要な。この主題検索の理論は、大別この科目では、両者に共通する主題検索の基本的な考え方を学んでもらうことを目的とする。	[講義計画] 今日の多くの大学図書館で利用に供されているOPAC(オンライン閲覧目録)の時代にマッチした理論として考えていきたい。 7)分類法 1. 資料分類の意義 2. 基礎的理論 3. 世界の代表的な分類表 4. 分類表の作成法 5. 日本十進分類法: 助記法およびその構造 6. 相関索引等 1)件名法 1. 分類法と件名法の相違 2. 件名標目表とシソーラス 3. 基本件名標目表			
[成績評価の方法] 出席および最終講義時のテスト結果で評価する。	[参考文献] 丸山昭二郎編 『主題情報へのアプローチ』(雄山閣)			
[教科書] 木原通夫ほか著 『資料組織法 最新版』(第一法規出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料目録法演習	0 1 0 2	秋 学 期 秋 学 期	1 単 位 1 単 位	北 克 一
[演習概要・学習目標] 資料目録法で学習した目録規則、典拠コントロールなどを目録作成の演習を通して、目録に対する理解・経験を深めることを目的とする。実際に書誌ユーティリティを使用し、書誌データベース構築を基礎演習する。 各自の演習データ保存用にフロッピーディスク(3.5インチ/2HD)を持参のこと。	[演習計画] 1. 書誌ユーティリティのシステムと参加図書館の役割 2. 書誌レコード、典拠レコードの検索演習 3. 和図書所蔵登録、流用入力、新規入力演習 4. 洋図書所蔵登録、流用入力、新規入力演習 5. 和雑誌所蔵登録演習、洋雑誌所蔵登録演習 6. 典拠コントロール演習 7. 遡及入力とカード目録 8. OPAC構築演習 9. まとめ			
[成績評価の方法] 演習課題レポートおよび理解度小テスト	[参考文献] 日本図書館情報学会研究委員会編『電子図書館』勉誠社、2001.			
[教科書] 北 克一著『資料組織演習－書誌ユーティリティ、コンピュータ目録－』 改訂新版 M. B. A. 2000				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
資料分類法演習		秋 学 期	1 単 位	吉 田 憲 一
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>後期の演習（分類法）では、資料の内容（主題）にかかわる検索のための主題組織化の技術、つまり主題索引法（分類法および件名法）について、今日、日本の大多数の図書館で使用されている「日本十進分類法」（NDC）および「基本件名標目表」（BSH）を用いて授業を進める。毎回、演習課題を課して、それへの解答作成を通じて、主題組織化の実際を学習してもらうことをねらいとする。</p> <p>また、コンピュータ目録の時代に即した主題検索法についても、コンピュータ室を使用して演習を行う。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 主題分析と主題把握 <ol style="list-style-type: none"> ①自然語による主題把握 ②統一名辞による主題把握 2. 分類法 <ol style="list-style-type: none"> ①分類作業 ②一般分類規程 ③特殊分類規程 ④各類演習 ⑤別置法・図書記号法 3. 件名法 <ol style="list-style-type: none"> ①件名作業 ②件名規程 ③件名演習 4. コンピュータ演習 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>授業時に行う演習問題の解答レポートと、テストで総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>日本図書館協会編刊 『日本十進分類法 新訂9版』 日本図書館協会編刊 『基本件名標目表 第4版』</p>			
<p>[教科書]</p> <p>吉田憲一編著 『資料組織演習』（日本図書館協会） （JLA図書館情報学テキストシリーズ10）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
児童サービス論		春 学 期	2 単 位	清 水 昭 治
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この科目は、図書館における「児童サービス論」です。図書館、特に公共図書館では、中学生までのサービスを児童サービスと考へられており、赤らちゃん・幼童向けの絵本から、小学生・中学生までの中立的な本が準備されています。まず、この現実を学びます。少子化時代に入り、絶対多数の子供の減少と共に、社会的事件の中での子供達が注目されています。子供達の成長にとって、読書がいかに必要か、その読書を土さえる児童サービスの重要性を考えます。生涯教育が求められる中で、図書館の必要度は、ますます増大します。その時、図書館利用に、習慣化されることは大切です。その習慣化の第一歩が図書館における児童サービスなのです。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>講義と共に、具体的に、実際に、多彩に出版されている子供の本を紹介しながら、又、「読みかせ」などを通じて、子供の本を楽しみながら、講義をすすめます。</p> <p>又、ビデオ・スライドなどを利用しながら、具体的な子供の図書館の姿を学びます。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート、又は、学年末試験に加えて、出席状況や、平常成績とで、総合評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>参考文献は、講義の中で、お知らせしますが、まずは、文献よりも実際の図書館の児童室、あるいは、児童コーナーを体験しておいてください。</p> <p>1つめは、少し、躊躇しますが、一度、体験すれば、一般向の図書館と同じように利用できることと思います。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
図書及び図書館の歴史		秋学期	2 単位	上 田 格
[講義概要・学習目標] 人類の体外記憶媒体である図書は、依然として図書館資料の中心位置を占めている。その図書の歴史の変遷をたどり、最新の電子資料にいたる歩みを概説する。 次に、図書をはじめとする各種のメディアの保管・提供の場所であった図書館が、一部特権階級の人たちの占有物であった時代から、広く一般大衆に開放されるまでの、思想的・制度的変遷の経過をわかりやすく講義する。	[講義計画] 1. 記録の誕生と図書の歴史 2. 印刷の歴史 3. 非図書の出現 4. 古代の図書館 5. 中世の図書館 6. 近世の図書館 7. 近代図書館の先駆け 8. 近代公共図書館の誕生 9. 日本の近代図書館の歩み 10. 日本の近代図書館の歩み 続			
[成績評価の方法] 定期試験（筆記）を行って評価する。	[参考文献] 『図書館 その本質・歴史・思潮』増補版 岡田 温著 丸 葎 『近代図書館の歩み』森 耕一著 至誠堂 『図書館の歴史 アメリカ編』増訂版 川崎良孝著 日本図書館協会（図書館員選書 31）			
[教科書] 『図書館の話』森 耕一著 至誠堂（至誠堂選書）				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
資料特論		秋学期	2 単位	松永 俊男
[講義概要・学習目標] 行政資料、郷土資料、および視聴覚資料に注目し、それぞれの特徴、収集、利用等について解説する。それぞれの専門の研究者によって講義が行われる。	[講義計画] 1. はじめに 2. 行政資料について 3. 情報公開制度について 4. 公文書館について 5. 視聴覚資料について 6. CD-ROMの利用 7. 郷土資料について 8. まとめ			
[成績評価の方法] 講師それぞれの評価（テストまたはレポート）を総合して評価する。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
情報機器論		秋学期	2 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年の図書館は、単なる紙の集積ではない。色々な情報機器によって装備されている。そのことは、本学の図書館に1歩入って周りを見渡すだけでわかるであろう。言い換えると、情報機器に関する知識はこれからの司書にとって不可欠の知識である。</p> <p>本講の目的は図書館における情報機器に関する基本的な知識の修得である。単なる現状追認に終わらず、司書としての人生に役立つよう本質的な理解を目指す。</p> <p>具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と講義の進展の状態に応じて変更することもありうる。</p>		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義で要求するレポートのレベルについて ・情報を機械で扱うとは ・図書館学の五法則と情報機器 ・図書館で使われる情報機器 ・情報処理システムの基礎知識 ・パソコンの基礎知識 ・視聴覚機器とプレゼンテーション 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末レポートを主に、平常成績を加味し総合的に判断する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>進行状況に応じて指示する。尚、講義に必需とはしないが、志保田務・平井尊士 編著 図書館と情報機器・特論：情報メディアの活用 第一法規 に目を通すことは要求する。</p>		
<p>[教科書]</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ																																		
図書館特論		秋学期	2 単位	志保田務																																		
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>明治時代以来日本の図書館情報学が大きな影響を受けてきたアメリカ図書館情報学について、最近の研究成果を中心に講義を構築する。</p> <p>昨今におけるアメリカ図書館情報学の中心な関心事は、図書館の自由（知的自由）、インターネット、法との関係（図書館関係訴訟、著作権など）といえる。</p> <p>これらの点について、アメリカにおける学修（研究）、体験的習得法を軸に、若い研究者たちの、気鋭の発表を中心にすえる（インテグレーション）。</p> <p>以上をインテグレーション・チーフにおいて総合し、学生が近來のアメリカ図書館情報学についておおよそを把握できるよう図る。</p> <p>なお、アメリカ図書館情報学と交流する場合、日本語、英語における専門用語の表現の相違・対応に留意する必要もあり、この点にもそなえをする。</p>		<p>[講義計画]</p> <table border="0"> <tr><td>1</td><td>図書館特論概説</td><td>志保田務</td></tr> <tr><td>2</td><td>図書館情報学概説</td><td>志保田務</td></tr> <tr><td>3</td><td>アメリカ図書館学概観</td><td>志保田務</td></tr> <tr><td>4</td><td>公立図書館の目的と知的自由</td><td>高鍬裕樹</td></tr> <tr><td>5</td><td>インターネット時代と図書館の自由</td><td>高鍬裕樹</td></tr> <tr><td>6</td><td>公立図書館と法（日米概観）</td><td>前田稔</td></tr> <tr><td>7</td><td>パブリック・フォーラムとしての公立図書館</td><td>前田稔</td></tr> <tr><td>8</td><td>アメリカ公立図書館史観</td><td>薬師院はるみ</td></tr> <tr><td>9</td><td>公立図書館の目的の変化とその意味</td><td>薬師院はるみ</td></tr> <tr><td>10</td><td>図書館情報学の将来</td><td>志保田務</td></tr> <tr><td>11</td><td>日本における図書館情報の研究発表と英語</td><td>本山晶子</td></tr> <tr><td>12</td><td>まとめ</td><td>志保田務</td></tr> </table>	1	図書館特論概説	志保田務	2	図書館情報学概説	志保田務	3	アメリカ図書館学概観	志保田務	4	公立図書館の目的と知的自由	高鍬裕樹	5	インターネット時代と図書館の自由	高鍬裕樹	6	公立図書館と法（日米概観）	前田稔	7	パブリック・フォーラムとしての公立図書館	前田稔	8	アメリカ公立図書館史観	薬師院はるみ	9	公立図書館の目的の変化とその意味	薬師院はるみ	10	図書館情報学の将来	志保田務	11	日本における図書館情報の研究発表と英語	本山晶子	12	まとめ	志保田務
1	図書館特論概説	志保田務																																				
2	図書館情報学概説	志保田務																																				
3	アメリカ図書館学概観	志保田務																																				
4	公立図書館の目的と知的自由	高鍬裕樹																																				
5	インターネット時代と図書館の自由	高鍬裕樹																																				
6	公立図書館と法（日米概観）	前田稔																																				
7	パブリック・フォーラムとしての公立図書館	前田稔																																				
8	アメリカ公立図書館史観	薬師院はるみ																																				
9	公立図書館の目的の変化とその意味	薬師院はるみ																																				
10	図書館情報学の将来	志保田務																																				
11	日本における図書館情報の研究発表と英語	本山晶子																																				
12	まとめ	志保田務																																				
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト 70% 課題 20% 出席 10%</p>		<p>[参考文献]</p> <p>川崎良孝『アメリカ公立図書館成立思想史』日本図書館協会 1991 ウイン A. ウィーランド『「図書館権利宣言」を論じる』川崎良孝、薬師院はるみ 共訳 京都大学図書館情報学研究会（日本図書館協会発売） 2000 川崎良孝、高鍬裕樹『図書館・インターネット・知的自由：アメリカ公立図書館の思想と実践』 京都大学図書館情報学研究会（日本図書館協会発売） 2000</p>																																				
<p>[教科書]</p> <p>授業開始の時期に指示する。</p>																																						

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
学校図書館論Ⅰ（学校経営と学校図書館）		秋 学 期	2 単 位	吉 田 憲 一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>97年6月、長年の懸案であった学校図書館法が改正された。様々な問題を残しながらの改正であるが、これをこれからの学校図書館の充実に向けてどのように生かしていくかが今後の課題である。</p> <p>この授業では、「学校の中の図書館」としての学校図書館がもつ特有の機能（指導的機能）と、図書館自体がもつ共通的な機能（奉仕機能）を留意しつつ、学校図書館の意義と役割を全般的に学んでもらう。</p> <p>ここでは、学校図書館の主要な構成要素である人、施設、資料について、その経営（運営・管理）的な要素が中心となる。</p> <p>前半部分では、主として学校図書館の意義や役割について、後半部分では、学校図書館を掌理する司書教諭の役割および施設についてを、講義内容の柱として進めていく。</p> <p>また、ビデオを利用して、学校図書館のいきいきとした活動の実際も学んでもらうこととする。</p>		[講義計画]		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>中間期のレポートおよび最終講義時のテスト結果で評価する。</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>福永義臣編著 『学校経営と学校図書館』（樹村房） （学校図書館実践テキストシリーズ3）</p>				<p>塩見昇著 『学校図書館論』（教育史料出版会） （新編図書館学教育資料集成9） 全国学校図書館協議会編刊 『司書教諭の任務と役割』 学校図書館活性化研究会編 『学校図書館の活用実践事例集』 第一法規</p>

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
学校図書館論Ⅱ（学校図書館メディアの構成）		秋学期	2 単 位	志保田務
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本科目は、学校図書館法のものとの学校図書館司書教諭講習科目「学校図書館メディアの構成」にあたる。次のような概要と学修目標を有する。</p> <p><内容></p> <p>1) 学校図書館メディアの種類と特性 2) 学校図書館メディアの選択と構成 3) 学校図書館メディアの組織化</p> <p>資料配列法： 書架分類法：日本十進分類法（NDC） 図書記号法 別置法</p> <p>資料目録法： 主題目録法 件名法：基本件名目録法（BSH） 書誌分類法 名称による検索：日本目録規則（NCR）1987年版改訂版 著者検索 タイトル検索 キーワード検索 目録の機械化 多様な学修環境と学校図書館メディアの配置</p> <p><目標></p> <p>1) 学校図書館司書教諭の資格の取得 2) それにふさわしい、資料組織化、資料構成に関する知識の取得 3) 学校図書館の実際業務に役立つ知識の獲得</p>		[講義計画]		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テスト70% 課題応答20% 出席10%</p>		[参考文献]		
<p>[教科書]</p> <p>木原通夫、志保田務『分類・目録法入門：メディアの構成』第一法規 2002</p>				<p>高橋忠美 [ほか] 『学校図書館メディアの構成』放送大学教育振興会 2000</p>
①生協にて一括購入し販売する				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
学校図書館論Ⅲ (学習指導と学校図書館)		春 学 期	2 単 位	林 陸 雄
<p>[講義概要・学習目標] 学校図書館の役割は、児童・生徒の読書意欲を高め、各教科の学習指導、調べ学習、総合学習等の学習指導に寄与することにある。そのためには、常に読書ニーズや学習目的を点検し、それに合った図書・資料を選択・収集し、適切に活用できる環境を整える必要がある。さらに、彼らの学習を深め、その結果を発表する能力を育成することも求められている。この講義では、計画的な図書館運営とメディア活用能力育成のための指導について、その基本と実際をとりあげる。 授業の展開に当たっては、現場で実践されている先生を、ゲスト講師として適宜お招きする。 なお、学校図書館司書の役割と能力は幅広く奥深いものであるから、基礎資格に教員免許を必要とし、教員としての実務経験を10年ほど得ないことには、十全にその役割を遂行し得ないことを十分に認識しておくこと。教員免許と学校司書教諭免許があれば、大学新卒でもその専門職として採用され、直ちにその職務に就くことができるなどと、思いこまないでほしい。</p>		<p>[講義計画] 1. 授業びらき 2. 学校図書館の新しい役割1 3. 学校図書館の新しい役割2 4. 発達段階と学習指導 5. メディア活用能力の育成1 6. メディア活用能力の育成2 7. メディア活用能力も育成3 8. 情報サービス 9. レファレンス・サービス 10. 情報の収集と提供 11. 情報サービスとネットワーク活用 12. まとめ(テスト)</p>		
<p>[成績評価の方法] 出席状況、授業毎の小レポート、ならびに定期試験の結果を総合して評価する。ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>		<p>[参考文献] 授業中に適宜紹介する。</p>		
<p>[教科書] 志村尚夫監修 朝比奈大作 編著『学習指導と学校図書館』、樹村房</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
学校図書館論Ⅳ (読書と豊かな人間性)		秋 学 期	2 単 位	林 陸 雄
<p>[講義概要・学習目標] 子ども達の豊かな心を醸成するに当たって、読書指導及び読書体験の深化は重要な役割を担っている。 この授業では、子どもたちの読書ニーズを涵養し、読書活動を推進・援助し、人間性豊かな醸成に資する学校図書館活動の基本と実際についてとりあげる。授業の展開に当たっては、ゲスト講師を適宜お招きする。 なお、学校図書館司書の役割と能力は幅広く奥深いものであるから、基礎資格に教員免許を必要とし、教員としての実務経験を10年ほど得ないことには、十全にその役割を遂行し得ないことを十分に認識しておくこと。教員免許と学校司書教諭免許があれば、大学新卒でもその専門職として採用され、直ちにその職務に就くことができるなどと、思いこまないでほしい。</p>		<p>[講義計画] 1. 読書と人間1 2. 読書と人間2 3. 発達段階と読書 4. 中学生と読書 5. 読書指導 6. 学校図書館の整備と運営 7. 読書資料の種類と特性1 8. 読書資料の種類と特性2 9. 図書館情報と案内 10. 地域関連機関との協力 11. 読み聞かせ、ストーリーテリング 12. まとめ(テスト)</p>		
<p>[成績評価の方法] 授業毎の小レポート、定期試験の結果を総合して評価する。 ただし、2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。</p>		<p>[参考文献] 授業中に適宜紹介する。</p>		
<p>[教科書] 志村尚夫 監修 赤星 隆子 編著『読書と豊かな人間性』、樹村房</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学	01	春学期集中	4単位	木下 栄二
〔講義概要・学習目標〕 本講義の目標は、社会学に関する基礎的な知識とセンスの習得である。あらゆる社会現象を対象とする社会学は、実に多様かつ複雑であるが、根底には共通する基礎的な考え方が存在している。講義では、できるだけ身近で平易な例を取り上げながら、社会学の基礎知識の習得、それ以上にセンスを磨くトレーニングを目指していきたい。	〔講義計画〕 (1) 社会学へようこそ (3～4回) : 社会学はこんなこともやる!こんなこともできる!という例を紹介して、社会学の面白さ、多様性、奥の深さを学ぶ。 (2) 社会学の巨人達 (4～5回) : 人に歴史があるように、社会学にも歴史がある。社会学を作ってきた先輩達について少しは知っておこう。 (3) 地位-役割論 (4～5回) : たいいて人間は、なんらかの地位をもって社会のなかに位置付けられてしまう。そして地位によって期待される行動も異なる。良い悪いはいろいろあるが、とにかくそうでないと社会が認識しにくい。基礎理論としての地位-役割という考え方をしっかり習得しよう。 (4) 現代社会のトレンドを学ぶ (7～11回) : 「今」はどういう時代なのか? 具体的な現代社会のトレンドを対象としながら、社会学的思考法に磨きをかけよう。「男と女」「高齢社会」「高度消費社会」「国際化」などについて議論してみたいと考えている。			
〔成績評価の方法〕 学期末試験70%、小レポート10%、小テスト10%、授業態度10% なお、詳細については、最初の授業で説明する。	〔参考文献〕 森下伸也・君塚大学・宮本孝二『パラドックスの社会学』新曜社 川崎賢一・藤村正之編『社会学の宇宙』恒星社厚生閣 『別冊宝島176 わかりたいあなたのための社会学・入門』宝島社 高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書			
〔教科書〕 特に指定せず				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学	02	春学期集中	4単位	宮 本 孝 二
〔講義概要・学習目標〕 社会学は家族から国際社会に至るまでの広範な社会現象を対象とする。この共通教養科目の社会学では、社会学のみならず経済学、経営学、文学、法学などをこれから本格的に勉強していこうとしている各学部の1年生に、社会学の基礎知識と、社会学的分析の基本的方法を習得してもらうことを目的としている。現代社会と現代文化についての豊富な情報と、それらを分析するユニークな視点を提供したい。 社会学には実に多くの内容が含まれているので、そのすべてを紹介することはできないが、この講義ではパラドックス(逆説)という視点を設定し、できるだけ多くの研究成果を、その視点によって一貫性をもたせつつ順次体系的に説明する。したがって、人間存在、社会関係、家族、組織集団、犯罪・非行、経済、政治、文化さらには社会理論などについての社会学の基本知識が習得できるとともに、現代日本を中心とする世界事情についての現代人として不可欠な教養も獲得できよう。	〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 1 パラドックスの社会学とは何か 2 人間存在のパラドックス 3 人間関係のパラドックス 4 集団のパラドックス 5 逸脱のパラドックス 6 家族と愛情のパラドックス 7 科学と技術のパラドックス 8 文化と教育のパラドックス 9 経済のパラドックス 10 権力のパラドックス 11 運動のパラドックス 12 近代化のパラドックス 13 社会学的分析のパラドックス 以上の内容(補足あり)を順次約25回で講義する。			
〔成績評価の方法〕 前期末テストの成績によって評価する。	〔参考文献〕 その都度指定する。			
〔教科書〕 森下伸也・君塚大学・宮本孝二『パラドックスの社会学』(1999年、新曜社) 社会学の広範な内容を、パラドックスというユニークな視点の設定によって、体系的に整理しつつ、読者の興味関心を喚起できるスタイルで紹介・説明している。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学	03	秋学期集中	4単位	原 田 達
[講義概要・学習目標] 理論的で難しい話はしないし、できそうもない。何ごとにつけ理論的「基礎」は最後にやった方がいいと思っている。むしろ初学者には興味を惹く話を。 そこでここでは、暴走族や結婚披露パーティ、テレビ・ドラマのタレントの人気投票、市民マラソンや山登り、就職戦線の心理や豪華な産婦人科病院などを例にして、「社会」を解読することを試みたい。日常的で小さな出来事の解読から社会学にいたる、初学者には、その醍醐味こそが社会学を学び、社会学を实践しようとするための基礎となるだろう。 この講義は「出来事の社会学」への招待であり、社会学へのイントロダクションをめざしている。	[講義計画] 「講義概要」で述べたとおり、いくつかの出来事を例にして講義をおこなう。取り上げるテーマは次のとおり。 暴走するところ、儀式的消費、宙づりのことば、タレントの薫り、「ねば」と「たい」、走るところ、女たちを読む（現代小説を手がかりに）、ツーリズム文化の現在、等々。 聴くだけではなく、刺激を受けてくれることを期待します。そして、その刺激がきみたちの（「社会的」）行動に影響を与えることを希望します。			
[成績評価の方法] 試験をします。	[参考文献] 参考になる文献・資料などはHPにて公開しています。			
[教科書] 使用しません。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会学	04	秋学期集中	4単位	鈴 木 富 久
[講義概要・学習目標] 「社会学」は19世に生まれて以来今日まで、多様な方法論的立場から多様な再定義、再構成が試みられつつ、20世紀において質量ともにめざましい発展を遂げてきた。そのため、今日「社会学」と言っても、そこには方法論的立場を異にする多様な「社会学」の流れが存在している。そこで本講義は、まず、相次いで登場し現代社会学の基礎をつくりあげてきた主な諸潮流について、その展開を明らかにし、理論と方法の面から社会学への理解と関心の喚起に努めたい。その上で、後半においては、日本社会の現実をとりあげ、それを「企業社会」として把握する視角から、その全体構造と社会諸領域の問題状況についての分析を試みる。そして、現実分析の用具としての社会学の理論の役割や問題・課題等についても考えたい。	[講義計画] 序. 社会学とその展開 第I部 現代社会学の理論的基礎 §1. 初期社会学—コントとスペンサー §2. マルクス—近代社会の人間分裂と「土台—上部構造」論 §3. ウェバー—事実判断・価値判断と方法的個人主義 §4. デュルケム—方法論的集合主義と集合表象 §5. ミードとシュッツ—象徴的相互作用論と現象学的社会学の起点 §6. パーソンズ—行為体系と社会体系：社会システム論の形成 §7. グラムシー—ヘゲモニー論の国家・市民社会・知識人：人間統一の社会学 第II部 「企業社会」日本の編成と危機 §1. 「福祉国家」と「企業社会」 §2. 企業と労働者 §3. 企業と学校 §4. 企業と家族 §5. 企業社会と地域 §6. 企業社会と文化 §7. 企業・市民社会・国家と世界社会			
[成績評価の方法] 主として試験の成績による。 但し、期間中に適宜、小試験を実施することがある。	[参考文献] 小林・大関・伊藤・鈴木・竹内『人間再生の社会学理論』創風社 松田博・鈴木富久編『グラムシ思想のポリフォニー』法律文化社 見田宗介『現代社会の理論—消費化・情報化社会の現在と未来』岩波新書 宮本常一『忘れられた日本人』（岩波文庫）岩波書店 ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（上・下）岩波書店 ウォルフレン『日本—権力構造の謎』（上・下）早川書房（文庫版あり） 渡辺治・後藤道夫編『講座・現代日本』（全4巻）大月書店 浜島・竹内・石川編『社会学小辞典』有斐閣 古典・基本文献、その他は教科書『社会学講義ノート』132-133頁を参照			
[教科書] 鈴木富久『社会学講義ノート [増補・改訂版]』				

資格
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
医学一般		秋学期集中	4単位	郭 麗月
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 人体の基本的な構造や機能について理解させる。 2 臨床医学の各分野の概要について理解させる。 3 医学的リハビリテーションの概要について理解させる。 4 現代社会の代表的な疾患について理解させる。 5 公衆衛生の概要を理解させる。 6 保健医療対策の概要を理解させる。 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職について理解させる。 8 社会福祉士に必要な内容について理解させるよう留意する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 人体の構造・機能 2 一般臨床医学（内科、外科、整形外科、神経・精神科等）の概要 3 医学的リハビリテーションの概要 4 現代社会と疾病 <ol style="list-style-type: none"> 1) がん、生活習慣病 2) 各種感染症 3) 神経・精神疾患 4) 先天性疾患 5) 難病 6) その他 5 公衆衛生の現状 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人口動態 2) 疾病と受療状況 3) 医療関係者 4) 医療施設 6 保健医療対策の現状 7 医事法制と保健・医療機関及び専門職 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療法、医師法、保健婦助産婦看護師法等、医事法制の概要 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方 			
[成績評価の方法]				
レポート、定期試験の成績で評価する。				
[教科書]	[参考文献]			
福祉士養成講座編集委員会編 社会福祉士養成講座 13 「医学一般」（中央法規）	適時紹介する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
介護概論	01	秋学期	2単位	佐瀬 美恵子
	02	秋学期	2単位	伊達 京子
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<ol style="list-style-type: none"> 1 介護の役割と範囲を理解させるとともに、看護・医療及び家政との関係について理解させる。 2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解させる。 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それらに対する予防措置を講ずることができるようにする。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 介護の目標、機能及び範囲 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割 4) 健康維持のメカニズム 5) 終末期の介護 6) 介護過程の展開 2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本 <ol style="list-style-type: none"> 1) 住生活環境の安全管理（感染防止） 2) 食事 3) 排泄 4) 衣服の着脱 5) 入浴・身体の清潔と感染防止 6) 移動空間の確保 7) 健康習慣の獲得 8) 体力の維持（運動と機能維持） 9) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等） 10) 療養時の対応 11) 緊急・事故等の対応 12) 介護家族への生活維持援助 13) 福祉用具の活用 3 介護関係維持のための技法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康や生活の観察技法 2) コミュニケーションの技法 3) 記録と情報の共有化の技法 4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護婦・保健婦等医療専門職との連携のあり方 5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方 4 介護活動の場に特有な問題と技法 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家庭 2) 施設 			
[成績評価の方法]				
出席状況とレポートの内容を勘案し総合的に評価する。				
[教科書]				
『新版社会福祉士養成講座 14 介護概論』（中央法規）				
[参考文献]				
『ケアマネジメントのための福祉用具アセスメント・マニュアル』 市川潤（編）（中央法規） 『痴呆の人々のケアが活かせる場所グループホーム』 中島紀恵子（編著）（日本看護協会出版会） 『日常生活に援助を必要とする人の在宅ケア』 奥宮暁子・後閑容子（編著）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神医学		通 期	4 単位	岡田 章
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 精神医学、精神医療の歴史を理解させる。 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解させる。 3 精神医学の概念について理解させる。 4 精神医学の診断の基本的な方法について理解させる。 5 代表的な精神障害について理解させる。 6 治療の概要について理解させる。 7 病院精神医学および地域精神医学について理解させる。	1 精神医学、精神医療の歴史 2 脳および神経の生理・解剖 3 精神医学の概念 1) 精神医学の概念 2) 精神障害の成因と分類 4 診断法 1) 診断の手順と方法 2) 精神症状と状態像 3) 心理検査と身体的検査 5 代表的な精神障害 1) 症状性を含む器質性精神障害 (老人性痴呆を含む) 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害 3) 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害 4) 気分(感情)障害 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 7) 成人の人格および行動の障害 6 治療法 1) 身体的療法 ①薬物療法とその副作用 ②電気ショック療法 2) 精神療法 3) 環境・社会療法 4) 精神科リハビリテーション 7 病院精神医療および地域精神医療 1) 病院精神医療 (身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む) 2) 精神科救急医療 (インフォームドコンセントを含む) 3) 地域精神医療			
[成績評価の方法]				
春学期 レポート 秋学期 試験				
[教科書]	[参考文献]			
『改訂 精神保健福祉養成セミナー 精神医学 第1巻』 (へるす出版)	ICD-10 『精神および行動の障害』 (医学書院) DSM-IV 『精神疾患の分類と診断の手引き』 (医学書院)			

《 インテグレーション科目 》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー プ
精神科リハビリテーション学		秋学期集中	4 単位	栄 セツコ
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 精神科リハビリテーションの概念について理解させる。 2 精神科リハビリテーションの構成について理解させる。 3 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。 4 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。 5 精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。	1 精神科リハビリテーションの概念 1) リハビリテーションの概念と歴史 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則 3) 精神科リハビリテーションの概念 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状 2 精神科リハビリテーションの構成 1) 精神科リハビリテーションの対象 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携 4) 精神科リハビリテーションの施設 ①病院リハビリテーション施設等 ②社会復帰施設及びその他の社会資源 (小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など) ③精神保健福祉センター及び保健所 ④その他の協力機関、支援団体 5) 精神科リハビリテーションの関連領域 3 精神科リハビリテーションのプロセス 1) リハビリテーション計画 2) アプローチの方法 ①病院におけるリハビリテーション ②社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション ③地域におけるリハビリテーション 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション 4 医療機関におけるリハビリテーション 1) 作業療法およびレクリエーション療法 2) 集団精神療法 3) 行動療法 4) 認知行動療法 (生活技能訓練を含む) 5) 家族教育プログラム 6) デイケアおよびナイトケア 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導 5 精神保健福祉士が行うリハビリテーション 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション ①集団精神療法における精神保健福祉士 ②生活技能訓練における精神保健福祉士 ③デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士 2) 社会的リハビリテーション ①日常生活への適応のための訓練 ②社会復帰のための相談・助言・指導 3) 精神科リハビリテーションの総合化 4) 訪問看護・指導における精神保健福祉士 5) ボランティアの育成と活用 6) 職業リハビリテーション 7) 精神保健福祉施設と精神科リハビリテーション			
[成績評価の方法]				
毎時、主席状況、レポート等で総合的に評価する。				
[教科書]				
精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 『精神科リハビリテーション学』 (へるす出版)				
[参考文献]				

資格
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健福祉論		春学期集中	4 単位	栄 セツコ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。 2 精神障害者の人権について理解させる。 3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。 4 精神障害者に対する相談援助活動等理解させる。 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。 6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。 7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。 	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害者福祉の理念と意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害者福祉の理念 <ol style="list-style-type: none"> ①障害者福祉の発達 ②ノーマライゼーション ③リハビリテーション ④生活の質 (QOL) ⑤生活支援 2) 障害及び障害者 <ol style="list-style-type: none"> ①障害の概念 ②障害分類 (国際障害分類を含む) ③精神障害の特性 3) 障害者福祉の基本施策 <ol style="list-style-type: none"> ①障害者基本法 ②障害者プラン 4) 現代社会と精神障害者 <ol style="list-style-type: none"> ①精神障害者の概念 ②精神障害者と家族 ③精神障害者と地域社会 ④精神障害者のノーマライゼーション 2 精神障害者の人権 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害者の権利擁護 2) 精神医療における権利擁護 3) インフォームドコンセント 4) 地域社会における精神障害者の人権 3 精神保健福祉士の理念と意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健福祉の歴史と理念 2) 精神保健福祉士の意義 3) 精神保健福祉士の対象 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理 4 精神障害者に対する相談援助活動 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神障害者を取りまく社会的障壁 (バリアー) 2) 精神障害者の主体性の尊重 3) 相談援助活動の方法 <ol style="list-style-type: none"> ①医療施設における相談援助活動 ②社会復帰施設等における相談援助活動 ③地域社会における相談援助活動 4) 相談援助活動の事例 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健福祉法の意義と内容 2) 精神保健福祉士法の意義と内容 3) 関連法について 6 精神保健福祉施策の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健福祉に関する行政組織 2) 精神保健福祉に係る公的負担制度 (公費負担医療等) 7 精神保健福祉士の役割と関与 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神保健福祉士の役割 2) 精神保健福祉士に対する相談援助活動 3) 精神保健福祉士の役割と関与 4) 精神保健福祉における社会資源 <ol style="list-style-type: none"> ①精神障害者保健福祉に関する専門職との連携 ②社会資源 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席日数、レポート等で理解度を評価する。 必要に応じ筆記試験を行い、総合的に評価する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 (編) 『精神保健福祉論』 (へるす出版)</p>				
<p>[参考文献]</p> <p>成清美治、加納光子 (編) 『精神保健福祉概論』 (学文社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健福祉援助技術各論		通 期	4 単位	(春学期) 中本 明子 (秋学期) 重野 勉
<p>[講義概要・学習目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術 (ケースワーク) について具体的事例に基づき理解させる。 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術 (グループワーク) について具体的事例に基づき理解させる。 3 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。 4 精神障害者を対象とした地域援助技術 (コミュニティワーク) について具体的事例に基づき理解させる。 5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。 	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 精神障害者を対象とした個別援助技術 (ケースワーク) <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病及び障害に配慮した個別援助技術 2) 個別援助技術の実際と適用分野 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン 4) 具体的事例検討 2 精神障害者を対象とした集団援助技術 (グループワーク) <ol style="list-style-type: none"> 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術 2) 集団援助技術の実際と適用分野 (生活技能訓練を含む) 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン 4) 具体的事例検討 3 精神障害者を対象とした地域援助技術 (コミュニティワーク) <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域援助技術の概念と基本的性格 2) 地域援助技術の具体的展開 <ol style="list-style-type: none"> ①ノーマライゼーションの推進と住民参加 ②社会資源の活用と開発 ③地域社会における連携と調整機能 ④家族会、自助グループの支援 ⑤ボランティア等地域マンパワーの育成と活用 ⑥地域援助 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート提出</p>				
<p>[教科書]</p> <p>精神保健福祉士養成セミナー (第6巻) 『精神保健福祉援助技術各論』 (へるす出版)</p>				
<p>[参考文献]</p>				

資格
~01

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健福祉援助演習（第3年次生対象）	01	通 期	4単位	栄 セツコ
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個々に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習前においては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が高まるようにする。 2 演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。 3 実技指導等 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接実技指導 (2) 記録実技指導 (3) 集団実技指導 (4) 評価・効果測定実技指導 4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。 5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、課題への取り組み状況、レポートなどで総合的に評価する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 『精神保健福祉援助演習』（へるす出版）</p>	<p>[参考文献]</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健福祉援助演習（第4年次生対象）	02	通 期	4単位	郭 麗月
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</p> <p>2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法が学生個々に身につくよう、精神障害者の社会復帰に対する援助事例を取り上げるなどして、担当教員による個別指導並びに集団指導の下で、学生自身が積極的に報告し議論しあう形で事例研究およびロールプレイ等を行う。その際、次の点に留意する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習前においては、少なくとも精神病院等保健・医療施設及び社会復帰施設等福祉施設における精神障害者援助技術のモデル的な事例を取り上げ、講義の内容を深め、実習の教育効果が高まるようにする。 2 演習を通して援助関係の実際及びチーム医療の実践を身につけるようにする。 3 実技指導等 <ol style="list-style-type: none"> (1) 面接実技指導 (2) 記録実技指導 (3) 集団実技指導 (4) 評価・効果測定実技指導 4 精神保健福祉士としての、職業倫理についての理解を身につけるようにする。 5 実習後においては、実習総括をふまえて、精神障害者に対する援助技術及びリハビリテーション技法をより深めて身につけさせるようにする。 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、課題への取り組み状況、レポートなどで総合的に評価する。</p>				
<p>[教科書]</p> <p>精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 精神保健福祉士養成セミナー 第7巻 『精神保健福祉援助演習』（へるす出版）</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適時紹介する。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
精神保健福祉援助実習	01 02	通 期 通 期	6 単位 6 単位	郭 麗 月 栄 セツコ
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
1 現場体験を通して精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識の理解を深める。 2 精神保健福祉士として必要な知識及び技術並びに関連知識を実際に活用し、精神障害者に対する相談援助及びリハビリテーションについて必要な資質・能力・技術を修得する。 3 職業倫理を身につけ、専門職としての自覚に基づいた行動ができるようになる。 4 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。 5 関連分野の専門職種との連携のあり方を理解する。	1 実習オリエンテーション 2 視聴覚学習 3 現場体験学習 4 見学実習（急性期病棟など） 5 専門援助技術実習指導 6 リハビリテーション実習指導 7 配属実習 8 全体総括			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
全出席（学内・学外）を条件とする。実習記録、実習レポート、実習研究報告、実習先評価を総合して評価する。	適時紹介する。			
[教科書]				
精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編 精神保健福祉士養成セミナー 第8巻 『精神保健福祉援助実習』（へるす出版）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
英語音声学		春学期集中	4 単位	南 條 健 助
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
この授業では、実践音声学（practical phonetics）を重視する英国学派音声学（British School of Phonetics）の伝統に従い、標準的なアメリカ英語の音声、主として調音（articulation）の面から科学的に研究する。 実践音声学とは、自分の耳で聞いた聴覚印象や、自分で発音した際の音声器官（vocal organs）の状態および筋肉運動を知覚するといった自己観察に基づいて、音声を記述・分析する音声学の研究手法の一つである。したがって、この授業では、まず第一に、英語の音声を正確に聞き取るとともに、聞き取った音声を、個々の母音・子音ばかりでなく、そのつながり方や強勢・リズム・音調にいたるまで、忠実に再現し、発音した際に、自分の舌や唇あるいは喉などが、どのような動きをしているかを感じ取ることができる能力を身に付けてもらう。授業では、そのための音声学訓練（phonetic training）に、かなりの時間を割くことになる。また、そのような訓練と並行して、毎週少しずつ音学の理論と英語の音声事実を勉強していく。 なお、テキストは用いるが、必ずしもテキストどおりに授業を進めるのではなく、口述による講義が中心となるので、受講生諸君は話を聞きながら、各自でノートを取ることが求められる。	1. 入門編 2. 強勢とリズム 3. 音調 4. 母音 5. 子音 6. 音のつながり 7. 発展編			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
定期試験（60%）、提出課題（30%）、出席状況や授業態度（10%）を総合して評価する。なお、8回以上欠席した者には、定期試験の成績や提出課題の評価にかかわらず、単位は与えられない。授業中、私語をする受講生は即座に退室してもらい、その日は欠席扱いとする。	授業中に紹介する。			
[教科書]				
未定				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅰ		通期	4単位	有川康二
<p>[講義概要・学習目標] どのような教授法(教え方の哲学や方法)、どんな教科書にも長所と短所がある。要は、様々な教授法や教科書の長所をなるべく多く利用することである。ここでは、日本語の初級文法に焦点を絞り、(教師にとっての)実践的な文法整理と、(学習者にとって)効果的なドリルの紹介やシミュレーションを行う。</p> <p>一定の制限された状況(=教室内)や時間内(初級の集中コースとして例えば週15時間の約6か月)に、日本語を母語としない人に日本語文法全体の基礎的な体系を順序よく説得的に説明し、効果的に練習を行い、「使える日本語」を身につけてもらうためには、教える側に特別の知識と技術が必要となる。何語でもそうだが、ある言葉が話せることと、その言葉を外国語として他者に体系的、説得的に教えることができる能力とは別物である。同時に、「何故、自分は外国語を学ぶのか?何故、自分は日本語を外国語として教えるのか?」という問いを問い続けなくてはならない。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>指示表現(こそあと) 形容詞 存在表現 時制(テンス) 保留形(テ形) 願望の助動詞ta/gar 可能の助動詞e/rare 様態・推量の助動詞soo/yooda/rasii テイル・テアル・テオク(窓が開いている・開けてある・窓を開けておく) 授受表現(やる・あげる・もらう) 態(受身・使役・使役受身) 条件表現(雨が降ったら・降るなら・降れば・降ると) 敬語(お読みになる・お読みする・なさる・いたす)</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・筆記試験</p>	<p>[参考文献]</p> <p>三浦昭『初級ドリルの作り方』(凡人社)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>東京YMCA日本語学校(編)『入門日本語教授法』(創拓社)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅱ	01 02	春学期 秋学期	2単位 2単位	友沢昭江
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本語学習者の多様化にそって、多くの教材が開発されています。実際の教育に携わる者は、学習者の学習目標や言語背景を考慮に入れ、最も効果的な成果をあげるために最適な教材を選択する眼を持たなければなりません。さらには、市販の教科書や教材ではまかないきれない部分を補充するための自主作成教材を臨機応変に作成する能力も必要とされます。本講では、日本語教育において教科書や教材がどのような役目を果たすかを考えるとともに、実際に市販されている教科書を詳しく分析します。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>授業は、前半は講義形式で行い、後半はグループに分かれて教科書を分析し、その結果を発表します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末に試験を行います。それ以外にも授業への参加の姿勢、与えられた課題にしたがったレポート作成、および出席状況(半期13回の授業なので、基本的には全出席を望みます)を総合的に考慮して評価を行います。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>『初級ドリルの作り方』(三浦昭、凡人社) 『教え方の基本』(日本語教育演習シリーズ⑥、丸山敬介、凡人社) 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』(石橋玲子、凡人社) 市販の日本語教科書</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しません。(教員により配付されるプリント等を使用します。)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本語教授法Ⅲ		通 期	2 単位	友 沢 昭 江
〔講義概要・学習目標〕 本講では日本語学および日本語教授法関連の授業を受講した後、その知識や経験を総合して、実際の教育の場面で学習者とのようなインターアクションを行うかという、実践力の養成を目的とします。知識として獲得したことをいかに効果的に提示し、学習者のもつ多様なニーズや問題をどのように処理するかを、実際の授業形態の中で学びます。そのため、 <u>原則として日本語教授法Ⅰおよび日本語教授法Ⅱを終了した人へのみ受講を認めます。</u>	〔講義計画〕 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な教授法をビデオによるモデル授業を見ること等を通して比較検討します。 ・グループに分かれて、基本的な教授内容をいかに実際の教育現場で教えるかを研究し、発表します。 ・グループ単位で、実際の授業を組み立て、模擬授業として発表します（二回）。 ・実際の日本語授業を見学したり、希望者には夏期休暇中には学外(国内・海外)での教育実習(希望者)を行います。 			
〔成績評価の方法〕 <ul style="list-style-type: none"> ・学期初めにノートを作り、毎回の授業の内容をまとめるほか、適宜出される課題もそこに書き込み、一カ月に一回程度の割合でノートを提出してもらい、それを出席を含む、授業への貢献度の材料として判断します。 ・グループ単位で行う作業は、学生間の相互評価を行います。(各自が評価表に書き込み、それをクラスで閲覧して、フィードバックとします。) 	〔参考文献〕 『日本語教育論集』(吉田彌壽夫監修、学研) 『概説日本語教育』(遠藤織枝編、三修社) 『日本語教授法』(石田敏子、大修館書店) 『実践日本語教授法』(名柄迪監修、中西家栄子他、バベルブックス) 『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』(名柄迪他、アルク) 『日本語教育への道』(土岐哲他、凡人社) 『日本語教師をめざす人の日本語教授法入門』(石橋玲子、凡人社) 『日本語の地平線』(吉田彌壽夫言語記念論集編集委員会、くろしお出版)			
〔教科書〕 教員の用意する配付物を使います。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館概論		春学期	2 単位	井 上 敏
〔講義概要・学習目標〕 学芸員資格課程の基幹科目である。最初の授業で、学芸員課程の諸科目で何を学ぶのか、この「概論」の目的はなにかについて、見取り図を提供する。この授業で、博物館に関する最も基礎的な知識を学ぶ。	〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館の目的と機能 2. 博物館の歴史 3. 博物館の現状 4. 博物館倫理 5. 博物館関係法規 6. 生涯学習と博物館 			
〔成績評価の方法〕 平常点、レポート、およびテストを総合的に評価する。	〔参考文献〕			
〔教科書〕 広瀬隆人(編)『博物館学基礎資料』樹村房(2001年)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
博物館学各論		通期	4 単位	水口 薫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>近年ミュージアム・マネジメントという研究活動領域が拡大している。生涯学習の必要性和相まって博物館への関心は高く、博物館でも教育・福祉・援助・環境保護などあらゆることにマネジメント感覚が求められている。</p> <p>本講義では、博物館学芸員が身につける「博物館資料論」「博物館経営論」「博物館情報論」を内容とする。</p> <p>博物館学芸員が身につける博物館機能の構成要因の一つである博物館経営、博物館資料の収集・保管・展示等についての基礎知識の習得、調査・研究、教育・普及活動及び情報の意義と活用方法についての理解を図る。</p> <p>適時ビデオ資料を使用する。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>(前期)「博物館経営論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館の歴史、機能、組織、施設の基礎的な考え方 <p>「博物館資料論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館資料の概念、収集、整理、保管、記録化 2. 博物館資料の保存、展示（常設展示、企画展示） 3. 資料調査、研究活動の意義と方法、基礎知識 <p>(後期)「博物館経営論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. ミュージアム・マネジメント 3. 教育普及活動、ワークシート、ミュージアム・グッズ <p>「博物館情報論」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 博物館における情報の意義、提供について 2. 情報データベース、インターネットの活用方法 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席を兼ねた小テスト（適時）、定期試験と出席点にて総合評価</p>		<p>[参考文献]</p> <p>「ミュージアム・マネジメント 博物館運営の方法と実践」 （東京堂出版） 大堀哲、小林達雄、端信行、諸岡博熊（編）</p> <p>適時、プリントを配布。 その他、講義の時に提示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>「博物館ハンドブック」（雄山閣） 加藤有次、椎名仙卓（編）</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
博物館実習Ⅰ		9月集中	1 単位	井上 敏
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>博物館資料の取り扱いや展示に関する基礎的なことを大学内、および学外の施設で実習する。分野ごとに専門の教員が分担して指導する。</p> <p>予定している実習は、「文書資料の取り扱い」、「パソコンを利用した視聴覚資料の作成」、「顕微鏡観察」、「土器の復元」、および「考古遺物の実測」である。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>9月中旬に、5日間、連続で実施する。 詳細な日程は、追って発表する。</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>全出席が原則である。おもに実習ノートによって評価する。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書]</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
博物館実習Ⅱ		集中コース	1 単位	松永 俊男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>博物館の多様性を理解するために、各種の博物館において見学研修を行う。専任教員が交代で引率し、出席の確認をする。土曜、日曜、または休月中に実施する。総計で12回、実施するが、そのうち4回は両コース共通、コース別にそれぞれ4回である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>日程の詳細は追って発表するが、予定している博物館は下記の通りである。</p> <p>両コース共通：和泉市いずみの国歴史館、大阪歴史博物館、滋賀県立琵琶湖博物館、国立民族学博物館。</p> <p>産業文化コース：交通科学博物館、ガス科学館、UCCコーヒー博物館、なにわの海の時空館。</p> <p>東洋文化コース：和泉市久保惣記念美術館、堺市博物館、大阪城天守閣、大阪府立弥生文化博物館。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>おもに実習ノートによって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 チ ー フ
博物館実習Ⅲ		集中コース	1 単位	松永 俊男
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>指定した博物館で5日間程度の館務実習を行う。実習先の博物館としては、高野山霊宝館、和泉市いずみの国歴史館、堺市博物館、トヨタ博物館、産業技術記念館、ガス科学館、なにわの海の時空館、などを予定している。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>4月のガイダンス時に、各人の実習博物館の指定を行う。実習は夏期休暇中に行われるが、その具体的日時や実習内容は、博物館によって大幅に異なる。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>実習館の評価表と実習ノートに基づいて行う。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

「大学英語入門A」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01	岩永道子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Teruhiko Kadoyama Simon Capper	<i>English with Hit Songs</i>	成美堂
02	大橋範子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉		プリント配布	
03	佐々木英哲	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	野中 泉	チャレンジ・リスニング <i>Challenge Listening — Practical Approaches to the TOEFL</i>	金星堂
04	中村善雄	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Stephen Hall Troy Blappert Makoto Shishido	<i>Strategies for Better Communication</i>	成美堂
05	Philip Billingsley	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉			
06	朴 真理子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉		第一回目の授業で指示する	
07	萬戸克憲	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	N. kumai S. Timson	<i>Smash Hit Listening</i>	Macmillan Language House
08	吉田一穂	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	石田雅近他	<i>Step-up Interactive Listening</i> 〈ステップ アップ リスニング 教本—基礎から応用へ〉	金星堂
09	渡邊真理子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Angela Buckingham Norman Whitney	<i>Passport</i>	Oxford University Press
11	Carlquist L. Harris	文 学 〈再履修クラス〉	Molinsky & Bliss	<i>Express Ways 2</i>	Prentice Hall Regents
12	Louise Pender	文 学 〈再履修クラス〉	Warren Wilson Roger Barnard	<i>Fifty-Fity Book 2</i>	Prentice Hall

「大学英語入門B」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01	小野良子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉		「これで万全TOEIC Testの読 解力アップ」(英宝社) ¥1,700	
02	近藤摂子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	安田哲夫	<i>Newspaper English — 2002 Edition —</i>	朝日出版社
03	作井恵子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	S. Heyer B. Mikalecky	<i>More True Stories in the News</i> <i>Reading Power</i>	Addison- Wesley Addison- Wesley
04	高倉正行	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Stephen Bryant	<i>The Story of the Internet</i>	Penguin Readers
05	玉巻欣子	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	ニコラ・チャールズ	くらしの法律小百科：Q & A	南雲堂
06	中井紀明	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Kenji Kitao	A Guide to Effective Reading	金星堂
07	橋本昇	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	Bruce Allen 宍戸真	<i>Environment and Health</i>	成美堂
08	橋本昇	経済・社会・経営 〈再履修クラス〉	山村三郎 Paul H. Allum	<i>Save Our Planet</i>	成美堂
11	杉田トモ子	文学 〈再履修クラス〉	横山竹巳・森山盛吉 羽井佐昭彦 John Eckard	<i>Science in Nature and Health</i>	朝日出版社
12	橋本昇	文学 〈再履修クラス〉	Oscar Wilde	<i>The Picture of Dorian Gray</i>	開文社

英語 I (リーディング) 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01	岩永道子	社会	Takahisa Tsuchiya Bill Benfield	<i>Read Up -22 Step to Strategic Reading</i>	成美堂
11	木村ゆみ	経済 〈再履修クラス〉	Linda Lee Barbara Bushby	<i>Thoughts & Notions</i>	松柏社
12	辻井悦子	経済 〈再履修クラス〉	Yvonne Stapp	<i>Frontiers in Science</i>	成美堂
13	西崎和子	経済 〈再履修クラス〉	浅間正通 Colin Sloss	<i>Face It!</i>	南雲堂
14	山本路恵	経済 〈再履修クラス〉	Roald Dahl	<i>The Best of Roald Dahl</i>	英宝社
15	近藤摂子	経済	藤井章雄	<i>English for Mass Communication -2002 Edition-</i>	朝日出版社
16	近藤摂子	経済	藤井章雄	<i>English for Mass Communication -2002 Edition-</i>	朝日出版社
17	佐藤充弘	経済	伊藤晶子他	<i>Fish in Water --The Hidden Influence of Media in Our Lives</i>	Macmillan Language House
18	橋本昇	経済	宮野智靖 Joseph T. Ruelius	<i>Welcome to USA TODAY 2002</i>	開文社
19	三宅敦子	経済	Jim Knudsen	<i>Simply Britain and Japan and America, too</i>	南雲堂
31	Michael Carroll	社会 〈再履修クラス〉	Nancy Sakamoto and Reiko Naotsuka	<i>Polite Fictions: Why Japanese and Americans seem rude to each other. ISBN 4-7647-0396-3</i>	金星堂
32	佐治多嘉子	社会 〈再履修クラス〉	佐藤哲三 愛甲ゆかり 池田賢治 新藤照夫	<i>STEP-UP ENGLISH</i>	南雲堂
33	南條健助	社会 〈再履修クラス〉		開講時に指示	
34	三宅敦子	社会 〈再履修クラス〉	Jim Knudsen	<i>Simply Britain and Japan and America, too</i>	南雲堂

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
35	岩永道子	〈スポーツ推薦クラス〉	Teruhiko Kadoyama Simon Capper	<i>English with Hit Songs</i>	成美堂
36	西崎和子	社会	Angela Goddard L. M. Patterson	<i>Language and Gender</i>	英宝社
37	大原始子	社会	Crystal, D.	<i>English around the World</i>	郁文堂
51	Terence J. O'Brien	社会福祉	O'brien, Terry	<i>Clearly Britain, Clearly Japan</i>	南雲堂
52	中村善雄	社会福祉	Hironori Hayase Mariko Hiwatashi Zonia Mitchell	<i>Reading Preparation Course for the TOEIC Test</i>	英宝社
61	大川愛子	経営 〈再履修クラス〉	Dale Carnegie	<i>Our Mental Attitude</i>	英宝社
62	沖野泰子	経営 〈再履修クラス〉		<i>Mini World 2002</i>	Macmillan Language House
63	木村博是	経営 〈再履修クラス〉	T. O'Brien	<i>A Trip to Britain</i>	南雲堂
64	太原康雄	経営 〈再履修クラス〉	Kai Nordyke	<i>Messages from the 20th Century</i>	成美堂
65	井上恭英	経営 〈再履修クラス〉	James Kirkup	<i>Folktales of Ireland</i>	成美堂
66	和栗了	経営 〈再履修クラス〉	三上政直 益田恒彦	<i>Stories from the Bible</i> (聖書物語)	南雲堂
67	今井由美子	経営	Kazuya Asakawa 他 (浅川和也他)	<i>A World in Common Global Perspectives for the Future</i> (総合英語：グローバルに考える)	三修社
68	今井由美子	経営	Kazuya Asakawa 他 (浅川和也他)	<i>A World in Common Global Perspectives for the Future</i> (総合英語：グローバルに考える)	三修社
69	上村淳子	経営	深山晶子	<i>Views for Tomorrow 2002/2003</i>	三修社
70	出原博明	経営		プリント	

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
71	堀内真由美	経営		Text版 ミニワールド2002	Macmillan Language House
72	萬戸克憲	経営	Kadoyam他	<i>English with Hit Songs</i>	成美堂
73	伊藤貞基	経営	Gary Althen	<i>American Ways</i>	Macmillan Language House
81	釣井千恵	英語英米 〈再履修クラス〉	Casey Malarcher, 森田 彰、松井直樹 山崎達朗、 Stella M. Yamazaki	<i>Basic Faster Reading: 速読の基礎演習</i> <i>News Watch: 衛星放送で学ぶ英語</i>	成美堂 金星堂
91	岡田章子	国際文化 〈再履修クラス〉	Michael Bond	<i>A Bear Called Paddington</i>	金星堂
92	Terence J. O'Brien	国際文化 〈再履修クラス〉	O'Brien, Terry	<i>Clearly Britain, Clearly Japan</i>	南雲堂
93	藤森かよ子	国際文化 〈再履修クラス〉	Ohashi Hisatoshi Gary Dendo	<i>Ethnic Peoples Shaping the 21st Century</i>	成美堂
94	前田淑江	国際文化 〈再履修クラス〉	Pearl S. Buck	<i>The Story Bible Vol. 1</i>	英宝社
95	大井映史	国際文化	Dan Kening & Others	<i>Too Young to Die</i>	北星堂
96	杉田トモ子	国際文化	George W. Pifer 横山竹己、羽井佐昭彦、 宮曾根美香、森山盛吉、 Lorne Spry	<i>TOEIC Short Listening Course</i> <i>Health and Science</i>	成美堂 朝日出版社
97	中島剛	国際文化	Basil Lechatt	<i>People Are Funny</i> <i>Looking at National Characteristics</i>	Macmillan Language House

英語 I (ライティング) 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
11	大橋 襄	経済	(春学期使用) 佐藤 寧、 J.ケヴィン・バーデン 佐藤裕美 (秋学期使用) 小中秀彦	<i>IMPROVING YOUR WRITING</i> <i>Learn by Comparing Basic English Expression</i>	南雲堂 朝日出版社
12	横山 三鶴	経済	Masako Sakamoto Noriko Furuya Charles D. Hubenthal	<i>Thoughts into Writing</i> パラグラフライティング入門	成美堂
13	吉田 一穂	経済	Chris Mosdell Tsukasa Matsui	<i>Akira's Trip to London : A Situational Notional Approach To Writing In English</i>	金星堂
31	都築 郷実	社会	八木克正	文法活用の日常英語表現	英宝社
32	橋本 昇	社会	Tatsuaki Tomioka James Hill	<i>Read Better to Write Better</i>	金星堂
51	Ronald Cline	社会福祉			
61	David T. VanHam	英語英米	George M. Rooks	<i>Share Your Paragraph</i> ISBN 0-13-660796-9	Longman
62	Kathryn L. マルヤマ	経営	Snowden, Paul	<i>Writing English at University</i>	南雲堂
63	三宅 亨	経営	Starfire, V. & Y. Tamura	<i>Writing in Action</i>	Macmillan Language House
91	大橋 範子	国際文化	Thomas Hardy	<i>UP AND OUT</i> <i>Expressing Yourself in English</i>	郁文堂
92	後藤 正次	国際文化		プリントではじめる	

英語 I (リスニング・スピーキング) 使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
01	南條健助	<スポーツ推薦クラス>		開講時に指示	
11	大川愛子	経済	Timothy Kiggell	<i>Wonderful U. S. A.</i>	Macmillan Language House
12	近藤撰子	経済	Shari J. Berman	<i>Basic Listening for the TOEIC Test</i>	成美堂
13	山本路恵	経済	琉球大学英語テキスト委員会	<i>Looking Out, Looking In</i>	英宝社
31	Ronald Cline	社会			
32	Sandra Healy	社会	M. Helgesen et al	<i>Firsthand 2</i>	Longman
33	Katia Peron	社会	Angela Buckingham + Miles Craven Wamen Wilson & Roger Barnard	<i>Get Real! - Student Book 2</i> <i>Fifty-Fifty Intro (+ Teacher's Edition + Cassette Tape)</i>	Macmillan Language House Prentice Hall Asia E1t
51	玉巻欣子	社会福祉	野口ジュディー	インターネットで学ぶ発信型英語	三修社
52	Kathryn L. マルヤマ	社会	Fuller, Dale Fuller, Corey	<i>Face to Face</i>	Macmillan Language House
61	大橋 襄	経営	早坂高則、松井秀親	<i>PERFECT LISTENING</i>	朝日出版社
62	Louise Pender	経営	Warren Wilson Roger Barnard	<i>Fifty-Fifty Book 1</i>	Prentice Hall
63	Louise Pender	経営	Warren Wilson Roger Barnard	<i>Fifty-Fifty Book 1</i>	Prentice Hall
64	朴 真理子	経営		第一回目の授業で指示する	
65	朴 真理子	経営		第一回目の授業で指示する	
66	渡邊 真理子	経営	Patricia A. Dunkel Christine G. Gorder	<i>Start with Listening</i>	松柏社

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
81	今井由美子	英語英米 〈再履修クラス〉	Jack C. Richards Waynel. Phillips他	<i>EXPANDINCT Tactics for Listening</i> <i>The Essence of College English Hearing</i> (大学英語ヒアリングのエッセンス)	Oxford University Press 朝日出版社
91	Lynne Douglas	国際文化			
92	作井恵子	国際文化	J. Richards	<i>Tactics for Listening</i>	Oxford University Press
93	作井恵子	国際文化	J. Richards	<i>Tactics for Listening</i>	Oxford University Press
94	堀内真由美	国際文化		<i>Photo Culture</i>	Macmillan Language House

英語Ⅱ（リーディング）（ライティング）（リスニング・スピーキング）使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈リーディング〉					
01	後藤正次	英語英米 〈編入生クラス〉		プリントではじめる	
02	木村博是	英語英米	柴田バネッサ T. O'Brien	<i>Reading Tactics for the TOEIC Test</i> <i>Looking Around England</i>	南雲堂 南雲堂
03	杉井正史	英語英米	Joseph Campbell	<i>The mythology of Love</i>	南雲堂
04	杉田トモ子	英語英米	福田利子 伊藤典子 Shari J. Berman, Alice L. Bratton, 早坂 信、岡田聡宏	<i>Newspaper English 2002 Edition</i> <i>Basic Listening for the TOEIC Test</i>	朝日出版社 成美堂
11	木村博是	国際文化	柴田バネッサ T. O'Brien	<i>Reading Tactics for the TOEIC Test</i> <i>Looking Around England</i>	南雲堂 南雲堂
12	坂本姫子	国際文化	Reginald Rose	<i>Twelve Angry Men</i>	開文社
13	釣井千恵	国際文化	Casey Malarcher, 森田 彰、松井直樹 長谷川 潔、 秋山高二、 L. P. Sanders	<i>Intermediate Faster Reading</i> ：速読の実践演習 <i>Asian Crossroads</i> ：最新アジア事情	成美堂 成美堂
〈ライティング〉					
01	杉井正史	英語英米	武田良一	英語表現法入門	英宝社
02	中島 剛	英語英米	S. Kathleen Kitao Kenji Kitao	<i>Writing English Paragraphs</i>	英潮社
03	Sandra Healy	英語英米	K.Blanchard+C.Root	<i>Ready to Write More</i>	Longman
04	吉田一穂	英語英米	Chris Mosdell 藤井基精	<i>Say It In Style</i> —A Cultural and Conversational Approach to the Use of Two-Word Verbs	金星堂
11	中村善雄	英語英米 〈編入生クラス〉	Haruo Kizuka Roger Northridge	<i>Common Errors in English Writing Third Edition</i>	Macmillan Language House

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
12	上田洋子	国際文化	上地安貞	<i>Survival Writing for College Students</i>	三修社
13	大井映史	国際文化	Hiroko Tajika Andrea Poulos	<i>Writing Activator</i>	三修社
14	佐治多嘉子	国際文化	George Ellington	<i>Writing Through the Skills</i>	Macmillan Language House
〈リスニング・スピーキング〉					
01	上村淳子	英語英米	角山照彦 Simon Capper	<i>English with Hit Songs</i>	成美堂
02	Terence J. O'Brien	英語英米	Jones, Leo	<i>Let's Talk 2 student's book</i>	Cambridge University Press
03	川上与志夫	英語英米	Troy Blappert 宍戸真	<i>Strategies for Better Communication</i>	成美堂
04	高倉正行	英語英米	島田拓司 永岡亨 種村昇治	<i>Getting Ready to Go Abroad</i>	成美堂
05	David T. Van Ham	英語英米	Dale Fuller	<i>Airwaves</i> ISBN-4-89585-157-5	Macmillan Language House
06	David T. Van Ham	英語英米	Dale Fuller	<i>Airwaves</i> ISBN-4-89585-157-5	Macmillan Language House
07	前田淑江	英語英米	Rex A. Tanimoto	<i>Uncle Rex's Storytelling Time</i>	大阪教育図書
11	横町治子	国際文化 〈編入生クラス〉	Dale Fuller	<i>Airwaves</i>	Macmillan Language House
12	太原康雄	国際文化	Timothy Kiggell	<i>American Kaleidoscope</i>	Macmillan Language House
13	辻井悦子	国際文化	English Textbook Committee, University of Ryukyus	<i>Looking Out, Looking In</i>	英宝社

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
14	釣井千恵	国際文化	John S.Lander 木塚晴夫	<i>Hollywood 2</i> <i>Let's Talk about Japan in English</i>	朝日出版社 金星堂
15	David T. Van Ham	国際文化	Dale Fuller	<i>Airwaves</i> <i>ISBN-4-89585-157-5</i>	Macmillan Language House
16	kathryn L. マルヤマ	国際文化	Leonard, Todd Jay	<i>Talk, Talk: American Style</i>	Macmillan Language House

英語Ⅲ（リーディング）（ライティング）（リスニング・スピーキング）使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈リーディング〉					
01	Daniel M. Walsh	英語英米	Fraida Dubin & Elite Olshtain	<i>Reading on Purpose: Building Cognitive Skills for Intermediate Learners</i>	Addison-Wesley
02	Lynne Douglas	英語英米			
〈ライティング〉					
01	Daniel M. Walsh	英語英米 〈編入生クラス〉	Hiroko Tajika & Andrea Poulos	<i>Writing Activator</i> ISBN4-384-33318-8	三修社
02	中島 剛	英語英米	Karen Blanchard Christine Root	<i>Ready to Write More : From Paragraph to Essay</i>	Longman
03	中島 剛	英語英米	Karen Blanchard Christine Root	<i>Ready to Write More : From Paragraph to Essay</i>	Longman
〈リスニング・スピーキング〉					
01	Katia Peron	英語英米 〈編入生クラス〉	Angela Buckingham & Miles Craven	<i>Get Real! - Student Book 2</i> <i>Get Real! - Student Book 3</i> (+Teacher's Book & CD)	Macmillan Language House
02	沖野 泰子	英語英米	Alan Rosen 森田勝之	<i>Good Will Hunting</i> <i>Practical Listening for TOEIC</i>	松柏社 金星堂
03	萬戸 克憲	英語英米	JACET	<i>Controversial Issues</i>	朝日出版社
04	山科 美和子	英語英米	Alan Rosen K. Morita	グッド・ウィル・ハンティング <i>Practical Listening for TOEIC</i>	松柏社 金星堂

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者																							
経済英語 I		通 期	2 単位	和 田 肇																							
[講義概要・学習目標] 日本の経済は、今や世界経済と密接な関係にあります。今後、ますます金、物、人、サービスの交流が活発になり、経済のみならず、ビジネス活動がグローバル化、複雑化してきます。学生諸君は将来、国際社会で活躍するにあたり、パソコン操作の習得に加え、英語で経済が読める能力を備え、高めておく必要があります。そのツールとして、英字新聞が最適です。 このクラスでは、英字新聞を通じ日本、世界経済、経営の事象を学びます。記事の背景説明と同時に、文法、同義語、反意語にもふれていきます。 日本のマスメディアとはやや異なる視点で世界を俯瞰しましょう。 英語と日本語の新聞を読むのが好きな人の参加を期待します。	[講義計画] (前期) <table border="0"> <tr> <td>1. 日本企業の海外進出</td> <td>7. エネルギー問題</td> </tr> <tr> <td>2. 企業買収、合併</td> <td>8. 地球の環境問題</td> </tr> <tr> <td>3. リストラクチャリング</td> <td>9. 時事問題</td> </tr> <tr> <td>4. 倒産</td> <td>10. 時自問題</td> </tr> <tr> <td>5. 商品開発</td> <td>11. 時事問題</td> </tr> <tr> <td>6. マーケティング</td> <td>12. 時事問題</td> </tr> </table> (後期) <table border="0"> <tr> <td>13.ベンチャービジネス</td> <td>19. 金利</td> </tr> <tr> <td>14. 外国企業の日本進出</td> <td>20. 証券問題</td> </tr> <tr> <td>15. 日本の景気動向</td> <td>21. 時事問題</td> </tr> <tr> <td>16. 世界の景気動向</td> <td>22. 時事問題</td> </tr> <tr> <td>17. 為替相場</td> <td>23. 時事問題</td> </tr> <tr> <td>18. 銀行経営</td> <td>24. 時事問題</td> </tr> </table> (注) 年間を通じ、時期を得た時事問題を織り込みます。			1. 日本企業の海外進出	7. エネルギー問題	2. 企業買収、合併	8. 地球の環境問題	3. リストラクチャリング	9. 時事問題	4. 倒産	10. 時自問題	5. 商品開発	11. 時事問題	6. マーケティング	12. 時事問題	13.ベンチャービジネス	19. 金利	14. 外国企業の日本進出	20. 証券問題	15. 日本の景気動向	21. 時事問題	16. 世界の景気動向	22. 時事問題	17. 為替相場	23. 時事問題	18. 銀行経営	24. 時事問題
1. 日本企業の海外進出	7. エネルギー問題																										
2. 企業買収、合併	8. 地球の環境問題																										
3. リストラクチャリング	9. 時事問題																										
4. 倒産	10. 時自問題																										
5. 商品開発	11. 時事問題																										
6. マーケティング	12. 時事問題																										
13.ベンチャービジネス	19. 金利																										
14. 外国企業の日本進出	20. 証券問題																										
15. 日本の景気動向	21. 時事問題																										
16. 世界の景気動向	22. 時事問題																										
17. 為替相場	23. 時事問題																										
18. 銀行経営	24. 時事問題																										
[成績評価の方法] 前期、後期の翻訳レポートの内容と出席状況に基づき総合的に評価を行います。 語学学習には根気が必要です。	[参考文献] <table border="0"> <tr> <td>英文経済記事の読み方</td> <td>日本経済新聞社 (日経文庫)</td> </tr> <tr> <td>経済英語入門</td> <td>日本経済新聞社 (日経文庫)</td> </tr> <tr> <td>新コンサイス時事英語辞典</td> <td>三省堂/機部 薫</td> </tr> </table>			英文経済記事の読み方	日本経済新聞社 (日経文庫)	経済英語入門	日本経済新聞社 (日経文庫)	新コンサイス時事英語辞典	三省堂/機部 薫																		
英文経済記事の読み方	日本経済新聞社 (日経文庫)																										
経済英語入門	日本経済新聞社 (日経文庫)																										
新コンサイス時事英語辞典	三省堂/機部 薫																										
[教科書] 不要 (当方にてプリントします)																											

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済英語 II		通 期	2 単位	野 出 孝 雄
[講義概要・学習目標] 我々は日常生活に於て、意識の有無にかかわらず消費・労働・金融とよび経済活動に参加している。従って経済は極めて身近な問題であると同時に、現代の国際化が進んだ社会においては、日々各種メディアを通じて、英語による経済用語や表現に接する機会が多い。 当講座では、こうした現実のニーズに、社会人、職業人としての道と進む者として積極的に対応できる素養を身につけるべく学習指導をする。	[講義計画] 前半: マクロ経済に関する英用語と表現文 経済の概念、市場・競争・価格、景気変動、国内経済、国際経済 後半: ミクロ経済に関する用語と表現文 家計、企業、金融(銀行・証券・保険)等個々の経済単位・分野			
[成績評価の方法] 期末テストと出席状況	[参考文献] 図書形式の副教材は用いるが、独自の必要と思われる用語リストや他資料をコピーして配布。			
[教科書] “経済英語入門”(日経文庫)石坂 裕彦著 発行所 日本経済新聞社 TEL. 03-3270-0251				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ビジネス英語Ⅰ		通 期	2 単位	和 田 肇
〔講義概要・学習目標〕 <p>今後、グローバル社会で活躍するための必須条件として、パソコンと世界の主流語である英語を駆使する能力が各企業から求められています。</p> <p>英語を学習するにあたり、文法、単語といったハードウェアの重要性もさることながら、その言語が主に使われている国の文化と人々の物の考え方を理解すること、つまりソフトウェアも併せて理解しておくことが必要です。</p> <p>将来、みなさんが米国へ赴任されたことを想定し、米国で遭遇するであろう幾つかの事象を、自分の海外勤務経験（米国、東南アジア）を通してテーマごとに授業を進めていきます。学生時代に日米文化の差異を理解しておく、将来不要なトラブルに巻き込まれずに、充実した楽しい海外生活が過ごせます。</p> <p>教材としては、英字新聞、雑誌、現地資料を使い、記事に隠れた文化の背景説明と、発音、文法、同義語、反意語にもふれています。</p> <p>好奇心が旺盛で、英語と日本語の新聞を読むのが好きな人の参加を期待します。</p>	〔講義計画〕 <p>(前期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 米国へ入国する際のビザの取得方法 2. 自動車免許の取得方法 3. 銀行口座開設方法 4. クレジットカードの取得方法 5. 支店、現地法人開設の方法 6. 不動産購入方法 7. 人事採用時の注意事項 8. 企業買収 (M&A) 9. 弁護士の利用 10. 陪審員制度 11. 大統領選挙 12. 時事問題 <p>(後期)</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. 株主代表訴訟 14. クラスアクション (集団訴訟) 15. 取締役責任 16. 製造物責任 (P/L) 17. セクシュアルハラスメント 18. アフターマタイプアクション 19. コンプライアンス 20. 犯罪 21. 離婚 22. 統規制 23. 時事問題 24. 時事問題 <p>(注) 年間を通じ、時期を得た時事問題を織り込みます。</p>			
〔成績評価の方法〕 <p>前期、後期の翻訳レポートの内容と出席状況に基づき総合的に評価を行います。 語学学習には、知的好奇心が必要です。</p>	〔参考文献〕 <p>英文記事の読み方 新コンサイス時事英語辞典</p> <p>日本経済新聞社編/日経文庫 三省堂/磯部 薫</p>			
〔教科書〕 <p>不要 (当方にてプリントします)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
ビジネス英語Ⅱ		通 期	2 単位	野 出 孝 雄
〔講義概要・学習目標〕 <p>ビジネス英語は文字通り商取引の場で用いられる英語であり、国際間の通信に加え、いわゆるオフィス英語も含まれる。</p> <p>ビジネス英語では、特有の語句、文体、記法があり、またレターその他文書も整った書式が要求される。こうしたビジネスライティングの会得は一般のレターをはじめ他の職場での公文書にも広く応用、活用ができる。</p> <p>当講座ではこうした分野の英務英語に抵抗なく取り組める能力が身につくよう学習指導する。</p>	〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスレターの書式と留意点 2. 貿易及び一般商取引の流れ、略説 3. 一連の取引の中でのモデルレターと定型文書類 4. 取引関連の社交文書の社内文書 5. 各種練習問題 			
〔成績評価の方法〕 <p>最終テスト及び出席状況</p>	〔参考文献〕 <p>図書館の形での文献は使用せず、こちらで適時資料を準備、配布する。</p>			
〔教科書〕 <p>『最新ビジネス英語』改訂版、石井陽一・大塚朝夫・福田靖著 English for International Communications 発行所: 株式会社 成美堂 〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22 TEL. 03-3291-2261</p>				

〈文学部国際文化学科 学科自由科目〉

「英語Ⅲ（リーディング）（ライティング）（リスニング・スピーキング）」

－ 応募要領 －

1. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。
2. 学則上、これらの科目は文学部国際文化学科教育科目の「学科自由科目（2単位）」に位置づけられています。
3. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。

対象者：96～00LI生

定員：50名

日時：3月30日（土） 9:10～13:00（昼休憩なし）

場所：学務課窓口

申込方法：先着順に受付決定します。学務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

＜注意＞ 申込みにあたっては、事前に授業時間割表で希望クラスの曜日・時限・時間割コードを確認しておいてください。
学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

〈国際文化学科 学科自由科目〉「英語Ⅲ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈英語Ⅲ（リーディング）〉					
	山科美和子	国際文化	Chancereel International Publishers 編	<i>In the English- Speaking World</i>	Macmillan Language House
〈英語Ⅲ（ライティング）〉					
	西崎和子	国際文化	田近裕子 Andrea Poulos	<i>Writing Activator</i>	三修社
〈英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）〉					
	Kathryn L. マルヤマ	国際文化	Solorzano, Helen S. Schmidt, Jennifer P. L.	<i>North Star: Focus on Listening and Speaking Intermediate</i>	Longman

〈共通自由科目〉

- 「英語Ⅰ（リーディング）（ライティング）（リスニング・スピーキング）」
「英語Ⅱ（リーディング）（ライティング）（リスニング・スピーキング）」
「英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）」

－ 応募要領 －

1. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、授業への継続的な出席が欠かせないからです。
2. 学則上、これら科目は「共通自由科目（日本語・外国語系）（2単位）」に位置づけられています。
3. 履修登録にあたっては以下のとおり事前に**予備登録（先着順受付）**が必要です。

対象者：96～01生（全学部・全学科）

定員：各クラス50名

日時：3月30日（土） 9:10～13:00（昼休憩なし）

場所：学務課窓口

申込方法：先着順に受付決定します。学務課窓口で申込書を受け取り、必要事項を記入の上提出してください。

＜注意＞ 「英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）」〈共通自由科目〉については、海外留学経験者もしくは、それと同等の語学力を有するものを対象とするアドヴァンストクラスですので注意してください。
学生証がないと受付できないので、必ず持参してください。

〈共通自由科目〉「英語Ⅰ・英語Ⅱ・英語Ⅲ」使用教科書一覧

クラス	担当者	対象	著者名	使用教科書	出版社
〈英語Ⅰ（リーディング）〉					
	横山三鶴		John Dougill	<i>Understanding Movies: A Study of Popular Film Genres</i>	Macmillan Language House
〈英語Ⅰ（ライティング）〉					
				授業開始時に指示する	
〈英語Ⅰ（リスニング・スピーキング）〉					
01	Denise Haugh		Angela Buckingham & Miles Craven Anna Mana Malkoc	<i>Get Real Student Book #2</i> <i>Easy Plays in English Revised Edition</i>	Macmillan Language House Prentice Hall Regents
02	Carlquist L. Harris		Molinsky & Bliss	<i>Express Way 2</i>	Prentice Hall Regents
〈英語Ⅱ（リーディング）〉					
	木村ゆみ		吉田信介／吉田晴也 池田真生子	オンラインで学ぶVOAサイエ ンス系総合英語	松柏社
〈英語Ⅱ（ライティング）〉					
	Ellen Head			授業開始時に指示する	
〈英語Ⅱ（リスニング・スピーキング）〉					
01	Jeffrey Herrick		Dale Fuller, Clyde W. Grimm	<i>Milestones</i>	Macmillan Language House
02				授業開始時に指示する	
〈英語Ⅲ（リスニング・スピーキング）〉					
	Daniel M. Walsh		Marc Helgesen & Steven Brown	<i>Active Listening: Expanding skills for Understanding</i>	Oxford University Press

「演習」等研究テーマ、使用教科書一覧

担当者	研究テーマ	使用教科書
〈経済学部〉「演習3」		
荒木 英一	経済モデルを学ぶ	開講時に相談して決める
一ノ瀬 篤	バブル再考	一ノ瀬篤・角南英郎『激動期の日本銀行金融政策：1971—1989年』 (大学教育出版) 1999年
伊代田 光彦	経済格差をめぐる諸問題	橋本俊詔著『日本の経済格差』(岩波書店) 経済企画庁国民生活局編「第3章 所得格差の分析」『新国民生活指標』(平成11年版、コピーによる)
上野 勝男	わたしはだれ、ここはどこ？ ——経済社会の昨日・今日・明日——	ロバート・ハイルブローナー著／宮川公男訳 『未来へのビジョン』 (東洋経済新報社刊)
桂 昭政	市場主義と日本経済 ——我々は現在進行しつつある弱肉強食の社会(市場万能社会)を乗り越えられるか——	伊藤元重『市場主義』(日経ビジネス人文庫) 佐和隆光『市場主義の終焉——日本経済をどうするのか——』(岩波新書) 金子 勝『セーフティーネットの政治経済学』 (ちくま新書)
木村 二郎	日本経済の行方	未定。テキスト決定次第E-Mailで連絡するので、各自第1回目の演習前に生協で入手すること。
熊谷 次郎	日本の経済思想	テッサ・モリス＝鈴木著／藤井隆至訳『日本の経済思想——江戸期から現代まで——』 (岩波書店) 1991年
巖 善平	中国のWTO加盟と経済の国際化	後日指定する
佐賀 朝	都市社会・地域社会の歴史的研究	随時、提示する。芝村篤樹『都市の近代・大阪の20世紀』(松籟社、1999年)などを予定しているが、事前に購入する必要はない。
鈴木 健	腐蝕する政官財癒着システム	黒田清『権力犯罪』(労働旬報社)
滝田 和夫	景気循環の研究	ラース・トゥヴェーデ著、赤羽隆夫訳『信用恐慌の謎』(ダイヤモンド社)
竹 歳一紀	食料・資源・環境をめぐる諸問題	レスター・R・ブラウン編著『地球白書2001—02』(家の光協会)(ただし、次年度版が間に合えば使用するかもしれない)

担当者	研究テーマ	使用教科書
竹原 憲雄	「構造改革」を考える	未定（演習開始までに知らせる）
津田 直則	経済と社会の再生にむけて	
中村 勝之	「考える」ということについて考える	使用しない
西川 憲二	日本経済の過去・現在・将来	後藤 晃「イノベーションと日本経済」 （岩波新書）
野田 知彦	雇用不安を考える	追って指示する
前田 治郎	現代のヨーロッパ経済	なし
前田 徹生	憲法問題エトセトラ	その都度紹介する
松尾 純	経済原論入門	大谷禎之介著『図解 社会経済学——資本主義とはどのようなシステムか——』 （桜井書店）2001年
三邊 信夫	貿易と経済発展	
モグベル ザファル	アジア経済の挫折と復興	アジア経済2001、経済企画庁調査局編、発行所、大蔵省印刷局
望月 和彦	ニッポンを討論する	猪瀬直樹「日本国の研究」（文春文庫） ほかは授業開始時に指示する。
矢根 眞二	「企業・産業の組織・戦略の研究」と「コーディネーション能力の養成」	メンバーの目標とレベルに応じて研究モデルの選択時に決定します
〈社会学部・社会学科〉「専門演習3」		
上田 修	現代日本社会の探究	必要に応じて、指示する
小川 登	日本の社会保障制度を知る	福祉士養成講座編集委員会（編）『社会保障論（新版）』（中央法規出版）2001年 川村匡由（編著）『社会保障論（第3版）』（ミネルヴァ書房）2001年
軽部 恵子	国際問題のリサーチ・分析方法を学ぶ	鷺田小彌太『入門 論文の書き方』（PHP研究所、1999年）
木下 栄二	「家族現象」からみる現代日本	ゼミ中に適宜指示する
清水 由文	「食」の社会学	未定

ゼミ

担当者	研究テーマ	使用教科書
鈴木 富久	現代社会と人間主体	飯田・中川・浜岡（編著）『新・人間性の危機と再生』（法律文化社） 小林・大関・鈴木・竹内・伊藤（共著）『人間再生の社会理論』（創風社）
鈴木 博信	世界をよむ・ロシアをよむ	池上 彰『そうだったのか！現代史』（集英社、2000年） 小林和男『図解 ロシアのしくみ』（中央出版、2001年）これ以外は5～6冊分を追って発表。
竹内 真澄	現代社会の動向と対抗	後藤道夫『収縮する日本型〈大衆社会〉』（旬報社）
竹中 英紀	現代日本の都市と地域社会の社会学的研究	金子勇・森岡清志編著『都市化とコミュニティの社会学』（ミネルヴァ書房、2001年、4800円）
津金澤 聡 廣	広報社会学の方法	事前説明会で文献リストを配布し、詳しく説明する。
出原 博明	漂泊と花鳥風月に遊ぶ	必要に応じてプリントを渡す
西川 一廉	若者の職業意識を考える	未定
原田 達	社会意識を読む	池井望・仲村祥一編『社会意識論を学ぶ人のために』（世界思想社）
松村 昌廣	国際戦略論の研究	随時指示する。希望者には、2001年度の文献リストを差し上げます。
宮本 孝二	社会学的分析の実践	その都度指示ないし配布する
村山 高康	現代国際政治研究——歴史と現状分析——	随時指定する
〈社会学部・社会福祉学科〉「専門演習3」		
石田 易司	障害者・高齢者のいきがづくりとキャンプ	「CAMPING FOR ALL」
上野谷 加代子	コミュニティソーシャルワーク研究	厚生白書 13年度版 岩田正美・上野谷加代子・藤村正之（著） 『社会福祉入門——ウェルビーイングタウン——』（有斐閣アルマ）
郭 麗月	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク	随時指定する
北野 誠一	ケアとその質についての検討	ゼミ活動中に適宜、指示する
瀧澤 仁唱	現代日本の社会福祉と権利	必要があれば授業中指示する

担当者	研究テーマ	使用教科書
坪山 孝	介護保険時代の高齢者福祉分野における施設及び在宅サービスの研究	特に使用しない 適宜、資料を配付する
松端 克文	社会福祉の援助・支援目標としての「地域自立生活」に関する研究	随時指示する
〈経営学部〉「専門演習3」		
明石 吉三	情報社会における情報技術・システムの役割	
稲別 正晴	日本の企業システムとその変革	説明会時に提示するがテキストは担当者が用意する
今木 秀和	日本企業の財務戦略	別途指示する
鬼塚 光政	「日本的生産システム」の海外移転	追って指示する
面地 豊	経営労働論	学生がテーマを決めるのであるから、私からは、決まったテキストは考えていない。
片岡 信之	21世紀初頭の企業経営をさぐる	片岡信之・齋藤毅憲・高橋由明・渡辺峻『初めて学ぶ人のための経営学』（文真堂）
岸本 裕一	流通と芸術とエンターテインメントとの相互連関	岸本裕一・田中達彦（著）『タイアップソング・マーケティング』（同文館） 岸本裕一・生明俊雄（著）『J-POPマーケティング』（中央経済社） みつとみ俊郎（著）『音楽ジャンルって何だろう』（新潮選書）
小林 哲夫	コスト・マネジメント及び戦略的管理会計に関する研究	現在のところ特定していません
志保田 務	情報サービス組織論	高山正也編『図書館・情報センターの経営』（勁草書房）3708円
清水 信匡	計画＋コントロールの研究	吉田新一郎著『会議の技法』（中公新書1520）（中央公論社） 澤田昭夫著『論文の書き方』（講談社学術文庫153）（講談社）
徐 龍 達	国際会計基準への入門	西川郁生監修『よくわかる国際会計基準』（中央経済社）1999年刊 ¥2,600
武田 久義	保険とリスク・マネジメントの研究	プリントを配布する

担当者	研究テーマ	使用教科書
谷口照三	経営と倫理——21世紀における『経営の在り方』の探求——	A 小松隆二著『公益学のすすめ』 (慶應義塾大学出版会) 2000年 B ドーン・マリー・ドリスコル、W・マイケル・ホフマン著、菱山隆二・小山博之訳『ビジネス倫理10のステップ——エシックス・オフィサーの組織変革——』 (生産性出版) 2001年
全在紋	ビジネス・ゲームを通しての経営財務感覚の練磨	協和醸酵(著)『人事屋が書いた経理の本』 (ソーテック社)
野田俊範	現代企業社会システムの研究	適宜指示する
長谷川彰	日本商業史について考える	藤田貞一郎他著『日本商業史』(有斐閣)
朴大榮	会計レンズを通して見た企業経営	伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』 (日本経済新聞社)
牧野丹奈子	情報化時代における企業組織	追って指示する
〈文学部・英語英米文学科〉「セミナーⅠ」		
小野良子	英米現代演劇を読む／楽しむ	1. S. Beckett, <i>Waiting for Godot</i> 2. J. Osborne, <i>Look Back in Anger</i> 3. T. Williams, <i>The Glass Menagerie</i> 4. A. Miller, <i>The Death of A Salesman</i> 5. E. Albee, <i>Who's Afraid of Virginia Woolf?</i> 6. H. Pinter, <i>Betrayal</i>
佐々木英哲	Melvilleの“Billy Budd”を読む	Herman Melville. “Billy Budd, Sailor.” (「ビリー・バッド」) (北星堂)
中村祥子	イギリス小説を味わう	John Dougill著 <i>Popular Classics of English Literature</i> (英宝社)
林宅男	談話における言葉の意味研究	泉子・K・メイナード著「談話分析の可能性」 くろしお出版(1997) 泉子・K・メイナード著「会話分析」 くろしお出版(1993) プリント教材
萬戸克憲	異文化間コミュニケーションの立場からの英語教育	D. R. Levine, M/B/Adelman (共著) <i>Beyond Language: Cross-Cultural Communication</i> . Second Edition (Prentice Hall)
南條健助	英語音声学・音韻論研究	英米で出版されている英語音声学・音韻論の概論書を使用する予定(書名などは別途指示する)

担当者	研究テーマ	使用教科書
Michael Carroll	外国語を学ぶことと実用談話分析	未定
〈文学部・国際文化学科〉「国際文化演習AⅠ」		
今澤 浩二	西アジア・イスラーム世界に関する総合的研究	授業中に指示する
片倉 穰	日本人の外国観、外国人の日本観に関する研究	とくにない
原山 煌	「中華」と「夷狄」をめぐる諸問題	三田村泰助『黄土を拓いた人びと』生活の世界歴史2 (河出文庫 河出書房新社) 1991
深澤 徹	吉備大臣入唐異聞	
〈文学部・国際文化学科〉「国際文化演習BⅠ」		
赤瀬 雅子	フランス文化	村岡・富田編『街角のフランス語』 (駿河台出版刊)
滝澤 武人	チャップリンとその時代	チャップリン『自伝』上・下 (新潮文庫) 岩崎 昶『チャーリー・チャップリン』 (講談社現代新書)
友沢 昭江	開かれた言語としての日本語	講読する文献は教員が用意して、随時配布する。
橋内 武	テキスト分析——ことばのしくみとはたらきを解き明かす	Carter, Ronald et al. (2001 ²) <i>Working with Texts</i> . London:Routledge. (早目に買い求めて、予習を始める。)
坂 昌樹	ヨーロッパの歴史・文化・社会	3回生の最初のテキストとして、阿部謹也、『『世間』論序説 西洋中世の愛と人格』、朝日新聞社 (朝日選書632)、1999年 (¥1200+税) を読みます。 2冊目は未定です。
ロー・ヤマサキ・アニー	現代フランス演劇をよむ	プリントを利用します
〈全学部・全学科 (社会福祉学科を除く)〉「共通演習」		
冷水 啓子	子どもの発達と教育をめぐる諸問題	下山晴彦編『教育心理学Ⅱ——発達と臨床援助の心理学——』 (東京大学出版会)
高橋 ひとみ	子どもの遊びとスポーツ	高橋ひとみ著『子どもの健康科学』 (明研図書)
生瀬 克己	日本近代の戦争と庶民生活	

ゼミ

「演習」等研究テーマ、使用教科書一覧

担当者	研究テーマ	使用教科書
〈経済学部〉「演習4」		
荒木 英一	経済モデルのシミュレーション	
一ノ瀬 篤	国際金融の実際	①高橋克秀『図解改正外為法』 (東洋経済新報社、1997年) ②井上洋『貿易実務の基本が身につく本』 (かんき出版、1998年) ③上川・藤田・向『現代国際金融論』 (有斐閣、1999年)
上野 勝男	わたしはだれ、ここはどこ？ ——経済社会の昨日・今日・明日——	R・ハイルブローナー&W・ミルバーグ著 (香内 力訳)『経済社会の興亡』(ピアソン・ エデュケーション、2000年刊、2,400円)
梅本 哲世	戦後日本経済の歴史的研究	中村隆英『昭和経済史』 (岩波書店) 中村隆英『現代経済史』 (岩波書店)
桂 昭政	市場経済の光と影	・伊藤元重(著)『市場の法則』 (講談社) ・佐和隆光(著)『漂流する資本主義』 (ダイヤモンド社) ・金子勝(著)『セーフティーネットの政治 経済学』 (ちくま新書)
木村 二郎	日本経済の行方	
熊谷 次郎	アダム・スミスとケインズ ——経済思想とグローバル資本主義——	佐伯啓思(著)『アダム・スミスの誤算——幻 想のグローバル資本主義——(上)』、『ケイン ズの予言——幻想のグローバル資本主義—— (下)』 (PHP新書)
巖 善平	アジア経済の現状分析	経済企画庁調査局編『アジア経済2000』 (大蔵省印刷局) 2000年
芝村 篤樹	都市について考える	その都度指定する
庄谷 邦幸	地方自治体の産業政策 ——地域経済の活性化のために——	随時指示する
鈴木 健	腐蝕する政官財癒着システム	
滝田 和夫	景気循環の研究	随時プリント配布または指示

ゼ
ミ

担当者	研究テーマ	使用教科書
竹 歳 一 紀	食料・資源・環境をめぐる諸問題	レスター・R・ブラウン編著『地球白書2000-01』 (ダイヤモンド社) (ただし、次年度版が間に合えば使用するかもしれない)
竹 原 憲 雄	高齢化と国際化と分権化の政策分析	
津 田 和 夫	我が国金融の課題と将来像	入門「日本の金融機関」高木仁、高月昭年著、 東洋経済新報社、2000年4月初版、2900円
津 田 直 則	経済と社会の再生に向けて	文献紹介はすべてコピーで配布します
中 村 勝 之	経済学的観点からさまざまな現象を斬る	使用しない
西 川 憲 二	日本経済vsアメリカ経済	タガート・マーフィー著「日本経済の本当の話」 (毎日新聞社)
野 田 知 彦	人事と組織の経済学	「人事と組織の経済学」 (日本経済新聞社) Edward P. Lazear 著 樋口・清家訳
前 田 治 郎	現代のヨーロッパ経済	なし
前 田 徹 生	日本国憲法と改憲論議	その都度紹介する
松 尾 純	21世紀日本の展望	大槻久志著『「金融恐慌」とビッグバン」 (新日本出版社)
三 邊 信 夫	国際経済学理論の研究	渡辺太郎著「国際経済」 (春秋社発行)
モグベル ザファル	アジア経済の挫折と復興	アジア経済2000、経済企画庁調査局編 (大蔵省印刷局)
矢 根 眞 二	「企業・産業の組織・戦略」の研究と「コーディネーション能力」の養成	ミルグロム・ロバーツ (1997)『組織の経済学』 (NTT出版)
吉 見 研 次	会社法判例の研究	鴻常夫他 (編)『会社判例百選 (第6版)』 (有斐閣)
林 錫 璋	消費者をめぐる諸問題	森島昭夫・伊藤進編『消費者取引判例百選』 (有斐閣) 別冊ジュリスト135号
〈社会学部・社会学科〉「専門演習4」		
上 田 修	現代日本社会の探究	必要に応じて指示する

担当者	研究テーマ	使用教科書
小川 登	社会保障制度を知る	福祉士養成講座編集委員会（編）『社会保障論』（中央法規出版） 川村匡由（編著）『社会保障論』（ミネルヴァ書房）
軽部 恵子	国際問題のリサーチ・分析方法	・ 鷺田小彌太『「自分の考え」整理法』PHP研究所 1999年 ・ 同 『入門 論文の書き方』PHP研究所 1999年 ・ 高嶋幸広『相手の頭にスンナリ入る説明上手になる本』PHP研究所 1998年
清水 由文	「食」の社会学	
鈴木 博 信	世界をよむ・ロシアをよむ	「(ペンギン版)世界の現状」など、若干を使用の予定。詳細は追って発表
竹内 真澄	アメリカと北欧福祉国家の対比で日本を考える	ハワード・ジン『アメリカ同時代史』（明石書店）
竹中英紀	現代日本の都市と社会	
津金澤 聡 廣	広報社会学の方法	その都度指示する (1部は事前説明会で明示する)
中村 秀之	ハリウッド映画の歴史社会学	蓮實重彦（著）『ハリウッド映画史講義』（筑摩書房）1993年 R・L・キャリンジャー（著）『『市民ケーン』すべて真実』（筑摩書房）1995年 R・スクラー『アメリカ映画の文化史』上・下（講談社学術文庫）1995年 その他、適宜プリントを配布する。
西川 一廉	若者の職業意識を考える	
原田 達	社会意識の社会学	池井望・仲村祥一編『社会意識論を学ぶ人のために』（世界思想社）
松村 昌 廣	国際戦略論の研究	逐時指示する
宮本 孝二	英語で読む社会学	必要な教材は随時コピーで配布する
村山 高康	現代国際政治研究——歴史と現状分析——	随時指定する

担当者	研究テーマ	使用教科書
〈社会学部・社会福祉学科〉「専門演習4」		
石田 易 司	障害者・高齢者の生きがいづくりと組織キャンプ	石田易司（著）『痴呆性老人とキャンプ』（朱鷺書房） 石田易司（著）『さかさまの星座』（オモドック） 石田易司『CAMPING FOR ALL』
上野谷 加代子	コミュニティソーシャルワーク研究	・コミュニティソーシャルワークと自己実現サービス（万葉舎） ・社会福祉入門（有斐閣）他
北 野 誠 一	援助論のグランドデザイン	ゼミ中に適宜指示する
小 西 加保留	保健医療とソーシャルワーク	必要に応じて随時指示する
瀧 澤 仁 唱	現代日本の社会福祉と権利	必要があれば授業中指示する
坪 山 孝	介護保険時代の高齢者福祉分野に関する施設および在宅サービスの研究	教室で適宜資料を配布する
松 本 眞 一	児童福祉と少年非行	松本眞一（著）「児童福祉論」（相川書房） 松本眞一（著）「少年保護と児童福祉」（相川書房）
〈経営学部〉「専門演習4」		
明 石 吉 三	情報社会における情報技術・システムの役割	
稲 別 正 晴	現代日本企業の諸問題	
井 上 義 祐	企業と経営情報システム	井上義祐著「生産経営管理と情報システム」（同文館）平成10年
今 木 秀 和	経営戦略を考える	
鬼 塚 光 政	「日本的生産システム」の海外移転	宗像正幸・坂本清・貫隆夫 編著『現代生産システム論——再構築への新展開』（ミネルヴァ書房）
面 地 豊	経営労働論	
片 岡 信 之	21世紀初頭の企業経営をさぐる	特にテキストは指定しない

担当者	研究テーマ	使用教科書
岸本裕一	流通と芸術とエンターテインメントとの相互 連関	岸本裕一・田中達彦（著）『タイアップソング ・マーケティング』（同文館） 岸本裕一・生明俊雄（著）『J-POPマーケ ティング』（中央経済社） みつとみ俊郎（著）『音楽ジャンルって何だ ろう』（新潮選書）
小林哲夫	コスト・マネジメント／原価計算論に関する 研究	小林哲夫『現代原価計算論：戦略的コスト・ マネジメントへのアプローチ』（中央経済社）
佐々木 宏	パソコンを駆使した経営コンサルティング	年間を通しての使用テキストはなし
清水信匡	計画＋コントロールの研究	伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール 経営学 入門』（日本経済新聞社） 澤田昭夫著『論文の書き方』 講談社学術文庫153（講談社）
徐 龍 達	やさしい国際会計への入門	
武田久義	保険とリスク・マネジメントの研究	
谷口照三	21世紀と経営学の可能性	A J.シュレドレイク著『経営管理論の時代』 （文真堂）2000年 B グンター・パウリ著『アップサイジング の時代が来る——ゼロエミッションと雇用の 創出』（朝日新聞社）2000年
全 在 紋	ビジネス・ゲームを通しての経営財務感覚の 練磨	協和醸酵（著）『人事屋が書いた経理の本』 （ソーテック社）
中田信正	会計学と実践財務諸表分析	飯野利夫（著）『財務会計論（三訂版）』 （同文館）〈予定〉 中田信正（編）『セミナー資料：入門バラン スシートの読み方（2001年3月期決算）』 （大阪商工会議所・大阪簿記会計学協会） 〈配布予定〉
野田俊範	現代企業社会システムの研究	適宜指示する
長谷川 彰	日本商業史について考える	藤田貞一郎他『日本商業史』（有斐閣）
朴 大 榮	会計レンズを通して見た企業経営	伊藤邦雄『ゼミナール現代会計入門』 （日本経済新聞社）
牧野丹奈子	インターネット社会における企業経営のあり方	

担当者	研究テーマ	使用教科書
〈文学部・英語英米文学科〉「セミナーⅡ」		
岡田 章子	英詩鑑賞	Alfred Tennyson: <i>Enoch Arden</i> (研究社小英文叢書)
金城 盛紀	シェイクスピア研究	Anna Claybourne and Rebecca Treays (共著) <i>The World of Shakespeare</i> (London: Usborne Publishing Ltd.)
島田 勝正	テストのテスト (Test of Tests)	Heaton, J.B.: <i>Writing English Language Tests</i> . Longman, 1988 (語学教育研究所テスト研究グループ (訳) 『コミュニカティブ・テストイング』研究社 1992)
清水 真一	英語とその構造	
中井 紀明	ディキンソン草稿詩集研究	中井ゼミ編 (1999) 『ディキンソン草稿詩集』
藤森 かよ子	短編小説から見るアメリカン・ホラーの世界 ——あなたの恐怖は、恐怖で癒そう!!——	コピー資料使用 授業時に配布
〈文学部・国際文化学科〉「国際文化演習AⅡ」		
青野 正明	現代韓国および韓国・朝鮮文化の研究	必要に応じて指示します
小林 信彦	童話と説話	必要に応じて配布する
深見 純生	インドネシアの歴史と文化：国民国家の来し 方行く末	池端雪浦編『東南アジア2 島嶼部』 〔新版世界各国史〕(山川出版社) 1999年
〈文学部・国際文化学科〉「国際文化演習BⅡ」		
岩津 洋二	ヨーロッパ文化研究	
尾本 恵市	先住民族と人権	
国松 夏紀	ロシア、その過去・現在・未来	(1) 和田春樹著『〈地域からの世界史11〉 ロシア・ソ連』 (朝日新聞社) (2) 原卓也監修『〈読んで旅する世界の歴史 と文化〉ロシア』 (新潮社)
米山 喜晟	イタリア人の体験と業績	適宜、全員にプリントを配付し、また個別に 読むべき本を指定します。
〈全学部・全学科 (社会福祉学科を除く)〉「共通演習」		
竹中 暉雄	現代教育の諸問題	なし

セ
//

担 当 者	研 究 テ ー マ	使 用 教 科 書
寺 木 伸 明	底辺と周縁から見た日本史 ——歴史を読み直す——	大石慎三郎・斎藤洋一『身分差別社会の真実』 (講談社現代新書)
原 山 煌	伝統的中国世界とその周辺	宮崎市定(著)『中国史(上・下)』〔岩波全書〕 (岩波書店)
松 浦 道 夫	スポーツの功罪	
松 永 俊 男	博物館と図書館	授業時に指示する

